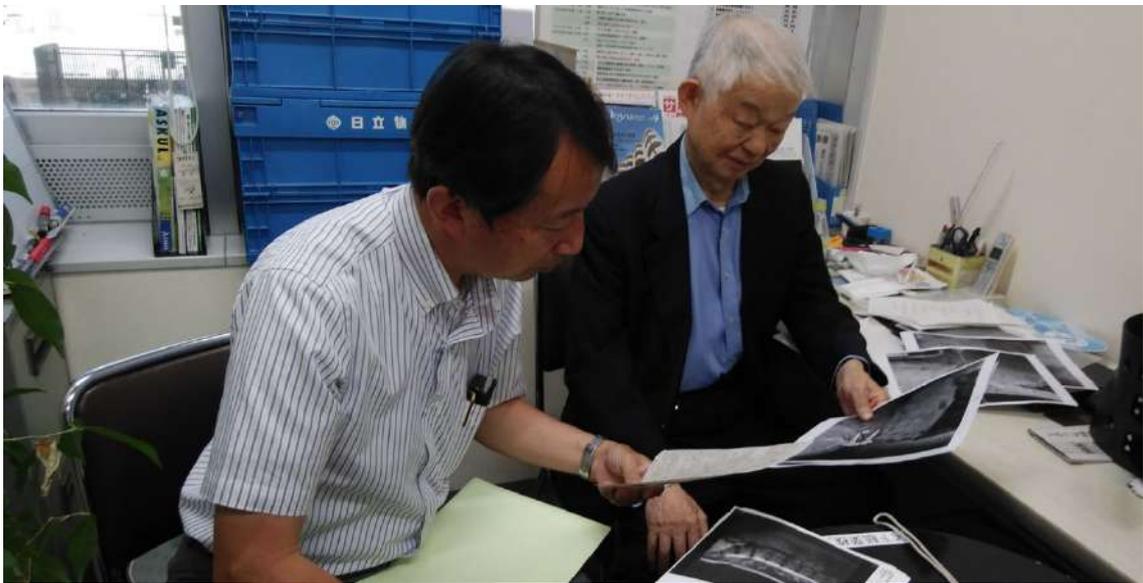


かながわ

イグレン

理論機関誌第16号（2023年1月）



写真上：事務所での座談会

写真下：スタッフ会議（10月）

神奈川県異業種連携協議会

< 目次 >

- I 特集 脊柱管狭窄症
- 1 脊柱管狭窄症体験者座談会 芝 忠
尾下 浩一
加藤 文男
- 2 脊柱管狭窄症と頸椎症の検査方法と手術
- 3 脊柱管狭窄症など手術のリスク
- 4 体験手記：しびれと痛みと24時間の戦い
- II 対話のための図書館 図書館のための対話 5 林 秀明
芝 忠
- III 「中途障害者が中途障害者を支援する福祉吟詠教室の紹介 指方 順一郎
- IV シクスト(日本科学技術情報センター)と
日本の科学技術情報政策(中) 芝 忠
- V 基本に戻ろう 企業経営 7 5Sを成功させるために 加藤 文男

特集：脊柱管狭窄症

少子高齢化の傾向から、巷では、老人で散歩する人が増えている。それも元気な姿ではなく、元気のない「とぼとぼ」とか「よぼよぼ」とした歩き方が増えた。公園では寒い中でもベンチに座り、静かに過ごす人も多くなった。

当企画は、芝専務理事が、脊柱管狭窄症手術を受けて頑丈なコルセットを着けて歩きまわった際、見覚えのある方々から「実は自分も同じ病気で、布製のコルセットを使用している」と声をかけられ、同病相哀れむ」ではないですが、それぞれ状態が違いますから、色々な意見を聞いて参考になったことが発端になっています。

2022年になり、当イグレンでも二人脊柱管狭窄症で手術をする会員があることが分かった。その事実を知ると「実は私も手足のしびれで悩む会員や歩行がし難くなって」と悩みを打ち明ける会員が結構おられる。ネットで脊柱管狭窄症を検索してみると医療機関が情報提供するホームページだけでなく、対応策としての痛みや苦しみの軽減策の宣伝も多数見られる。医療機関からは、予防方法でなく、手術による解決策や薬による痛みの軽減の宣伝が多い。

頸椎や腰椎の手術は、背骨の中を通っている神経が圧迫されることが原因と言われる。脊柱管狭窄症の手術は、全身麻酔で行われるだけでなく、高度な技術が要求されるのでその際、神経を痛めてしまうことも皆無とは言えないようだ。勿論、医療機関からは、情報提供はなされないが希に車いす生活になったという話も漏れ聞こえる。このような状況から、しびれや痛みだけでなく歩行が難しくなっても手術を避けて、痛みやしびれに耐え忍んでおられる方も多いと聞く。今回は、脊柱管狭窄症の手術を経験した者の立場で体験し、入手した情報を提供し、現在しびれや痛み、歩行困難に出会っておられる方々の参考にしていただければ幸いである。

これを機会にいろいろ体験された方々から異なった情報をいただき、さらに詳しい情報提供の機会になれば幸いです。

編集担当注記：

今回の特集は、脊柱管狭窄症の患者の立場での体験談を記載しています。従って、専門用語の使い方は、素人です。解釈の仕方など医師の方から聞いた言葉をできるだけ素直に聞いて早く治したい、楽になりたいという気持ちで都合の良い解釈をしていることもあると思います。もし医学的に間違いがあれば、ご容赦いただきたく思います。追って修正情報を出します。

1 脊柱管狭窄症経験者座談会

(司会 芝) 本日はお忙しいところありがとうございます。

3人の体験談がみなさんのお役に立つのではないかと考え企画しました。この病気でたまたま身近な3人が別々に病院で手術をし、それぞれ時期も病状も違いますし、同様な症状で悩んでいる方々には参考になると思います。

東京品川に本社がある尾下紙業(株)の尾下浩一社長、イグレン理論機関誌編集長・元大手企業の品質管理・海外営業を担当した加藤文男氏、私、イグレン専務理事の芝忠です。

病院名と選んだ理由

(芝) まず私からお話ししますと、今年(2022)7月に入院・手術したのが、横浜市金沢区の済生会若草病院。

済生会は全国組織で、正式には「社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会若草病院」。支部の本部病院は東神奈川にあります。横浜大空襲で焼失して疎開先が金沢区。本部病院が再建されても地域住民の要請で金沢区に残った。

もともと前立腺ガンの関係で、町医者の先生が元若草病院の泌尿器科部長をやっていたからという紹介で、泌尿器科に通っていました。総合病院なので原則紹介状がないと受け付けられないのですが、電話して「泌尿器科に通っているのだから整形外科で見てほしい」と頼んだら二つ返事でオーケーでした。

(尾下) 私は今年(2022)の2月に横浜の栄区にある栄共済病院に入院しました。脊柱管狭窄症の手術を専門に

行っている先生がいると紹介されて栄共済病院に行きました。入院前に地域の整形外科に通っていたので、後輩が共済病院にいるからと紹介されて行った。

(加藤) 私は、新横浜の近くのスパインクリニック、「スパイン」は背骨という意味で背骨関係しか手術をしない専門病院です。たまたまアマチュア無線の仲間の新年会の席で腰痛の話をしているときに隣り合わせたメンバーから「良い病院がある」というので2007年の最初の手術からこの病院です。ただ誰かの紹介があった方が良くと思って、同郷福島の出身の地元の医者で紹介してもらった。

手術までの経過 初期症状

(芝) もともと腰痛はだいぶ前から持病で持っていた。疲れるとでてくる。地元の整形外科に通ってコルセットを着けていたこともあったけれど、右足の痛みは今回初めて。

左足は40年以上前に三浦海岸で労組の合宿をやった時、2階から転落して、複雑骨折して、後遺症が残っていた。左足が痛むならわかるけれど、右足だったからこれは大変だと思った。2022年2月から腰痛が激しくなり、4月頃治って良かったなと思ったら急に右足が痛くて我慢できない。最初から手術してほしいと頼み、入院日程が決まった。

(尾下) 4年ほど前より太ももの後の部分や尻に痛みが走るようになり、前かがみでないと歩けなくなり、4~500メートル歩くと痛くて立ち止まるという事を繰り返していました。眠

っている時にも寝返りを打つだけで足に電気が走るような痛みを感じていました。

地元の整形外科で痛み止めの薬を処方されて服用していましたが段々薬も効かなくなり、それ以降はブロック注射か、手術を勧められました。地元の人整形外科では痛み止めの薬を使っていた、それ以上はブロック注射で、手術したほうが良いかなと思って入院した。

(加藤) 最初の手術は、2006年に尾下さんと同じように5分位歩くと、足にしびれが出て立ち止まったの休憩が必要になった。紹介されたクリニックでMRI検査をすると腰の部分で神経が圧迫されることが原因と分かった。2007年7月に手術をした。2回目の手術は、2015年1月ジョギング中に、転倒した後右手にしびれが発生した。右手のしびれは次第に厳しい、痙攣するようは痛みになり、耐えられなくなって、2015年3月急遽最初に手術をした医師に無理をお願いして頸椎の手術となった。頸部脊柱管狭窄症で「頸椎椎弓形成手術」でした。3回目の手術は、腰痛が厳しくなって、横になっているときでも腰に痛みが出てきた。「腰椎変形すべり症」との診断で、2016年7月「腰椎体固定手術」で3つの腰椎を2枚のチタン製の板を6本のネジで固定した。

入院期間

(芝) 当初手術後4週間の入院予定でしたが3週間で退院した。

(尾下) 入院期間は10日間。手術の1ヵ月前に1泊2日の検査入院をして、手術方法が決まりました。背骨を4か所削る術式で、芝さんのようにボルトで固定する必要はないとの

事です。手術は約2時間で終了でした。

(加藤) 私は過去3回、同じクリニックで腰と首の手術をしています。3回共に手術の翌日には、できるだけ歩くように言われて、10日間しかの入院させてくれなかった。3回目だけは、病床が開いていたので11日の入院でした。通院が不便なのでもっと入院していたかっただけですが追い出されるように退院しました。

個室か、大部屋が良いか

(尾下) 最初から個室を希望したので消灯時間も自由で本をよく読んだ。

(加藤) 大部屋だったけれど、6人全員同じような腰椎か頸椎の手術なので前に手術した人の状態を見て「自分も何日経過すればこうなるのかな」と回復する様子がわかって良かった。

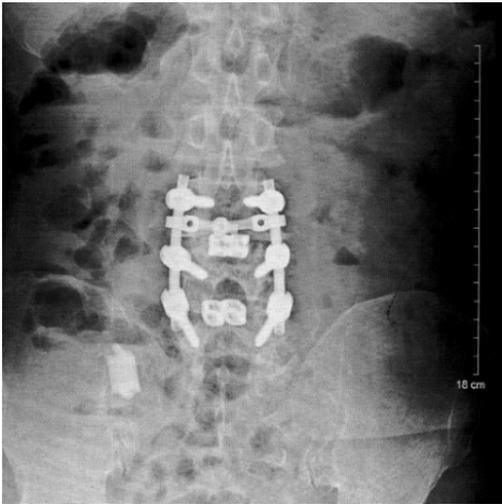
(芝) 大部屋(6人部屋)だったけれど、患者数が少なくて、事実上3人で斜めに配置されていたからあまり煩わしくなかった。

(尾下) コロナ禍で面会禁止だったから気楽だった。

手術名と内容

(加藤) 最初の手術は、「腰椎椎弓切除術」。神経を圧迫している部分の骨を削る手術でした。2回目の手術は、頸椎の「頸椎椎弓形成術」です。3回目の手術は、「腰椎体固定手術」です。3個の腰椎を2枚のチタン製板を6本のねじで固定する手術でした。よく覚えていませんが3回とも2時間程度のような感じでした。

(尾下) 同じ名称「腰椎椎弓切除術」です。神経の圧迫を取り除く手術で私の場合は削っただけなので手術時間が短かったのかもしれませんが。実際は1時間くらいでしょうか。

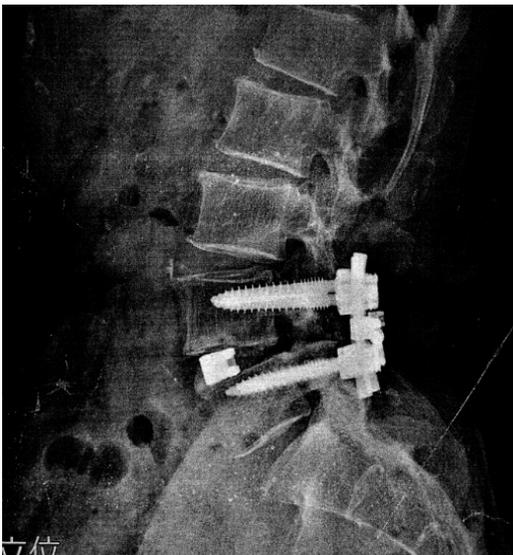


3つの腰椎を固定したCT写真
縦の2枚のチタン板を6本のビスで
固定した（背面から写す）

写真提供：加藤文男

(芝) 2個の腰椎に金属を入れて二つの腰椎を固定する手術でした。手術時間は3時間と聞きました。

(加藤) 芝さんの「腰椎体固定手術」は、2つの腰椎を固定する手術ですが、私の場合は、3箇所（箇所）の腰椎を2枚のチタン製の板を6本のネジで固定しました。



2つの腰椎を固定したCT写真
（側面から写す）

写真提供：芝 忠

手術後の経過

(尾下) 以前、盲腸破裂で緊急手術をした事がありましたが、今回は緊急性がないので我慢して付き合っていました。思い切って手術する決断をして良かったと思っています。

手術後3日間は患部の痛みが激しく、ベッドの上で自分では寝返りも出来ずに身動きも取れない状態でした。しかし元々痛みのあった太ももなどの痛みは一切無くなりました。

(芝) 手術前は右足が痛くて、台所で立っていただけで辛かったです。手術後、そういう痛みはなくなりましたが、後遺症として、腰の痛みがあり、ときどき右足もしびれる時があります。

さらに右手にシビレが発生することがあります。右手は全く新しいもので、医者には報告してありますが、もう少し様子を見ようということになっております。右手は頸椎になるので、おおごとになります。

足の痛みは「即手術が悪い」ということではなく、こちらもしっかりと歩く運動をする必要があるようで、少しずつ歩く距離を伸ばしています。椅子に座ってのパソコン作業については、だいぶ長時間出来るようになりました。これが一番大事（笑い）。しかし前みたいに長時間休憩なしに作業をすることを止めて、意識的に休憩をとるように努めています。

(加藤) 最初の手術後痛みが消え、8年以上脊柱管狭窄症のことを忘れて、仕事や生活に全く支障はなく、海外にも何度も出かけていた。

2回目の頸部の手術も、痙攣するような痛みも手術後完全に消えた。

2016年の3回目の手術「腰椎体固定手術」後も経過は順調で2018年7月手術後2年を経過したとき、CT検査及びMRI検査の結果、医師からそろ

そろ「脊柱管狭窄症」は卒業にしましょうと言われた。

MRI 検査と CT 検査の写真の入手

(加藤) 術後の説明を受けた際に、「写真のコピーを記念にください」と言ってもらいました。CT 検査の写真と MRI 検査の2種類です。

(尾下) 医者の方から写真をくれました。加藤さんと同じ資料をもらった。MRI の写真で黒く写っていた狭かった箇所が術後のレントゲンで白くなっており圧迫されていた部分が解消された事がわかりました。



中央の広い白い帯状が神経の通路
一部白い帯が狭くなっており神経が
圧迫されていることを示す

MRI 写真提供：尾下浩一

(芝) 画像で説明してくれたけど、「下さい」といわないとくれなかった。「個人情報だけど本人だからいいか」と言ってもらった。みなさんの話を聞いていたらもっと自信をもつ

て要求できたのに。(笑)

脊柱管狭窄症の推定原因

(芝) 先にも話をしましたがもともと腰痛はだいぶ前からあり、疲れるとでてくる。しかし、右足の痛みは今回初めて。

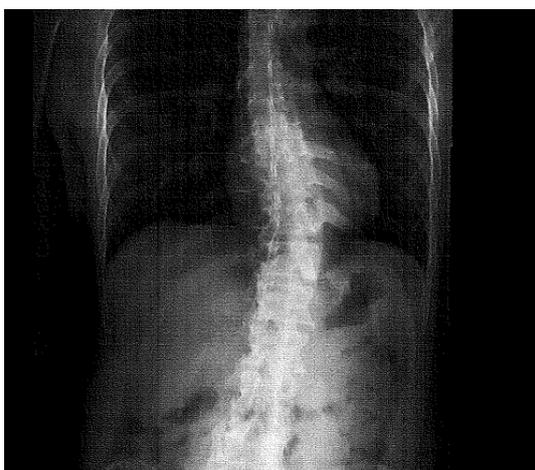
左足は40年以上前に三浦海岸で2階から転落して、複雑骨折して、後遺症が残っていた。左足が痛むならわかるけど、右足だったからこれは大変だと思った。2022年2月から腰痛が激しくなり、4月頃治って良かったなと思ったら急に右足が痛くて我慢できなくなった。

(加藤) 最初の腕の痛みは1990年代中頃に突然右の腕の芯に激しい痛みが出て、2週間ほど休みを取ったことがある。横になっても痛みで睡眠ができず、疲れてきて壁に寄りかかって、うとうとする日が続いた。この時の検査は、レントゲンX線検査だけで首の骨がつぶれているという診断でした。マッサージや鍼灸が良いと言われ対応していた。しばらくして痛みも軽減し、治ったように思えた。

私の場合、海外出張の際の無理しか思い当たらない。1980年代から海外営業を担当し、海外出張は80回以上を数えた。当時の海外出張用の大きなキャリバッグにはキャスターがなかった。不便な飛行場の中をこのバッグを運搬しながらの異動が頸椎と腰椎に過剰な負担をかけたようだ。また、飛行機が乱気流に巻き込まれて揺れがひどく、通路に投げ出された経験もある。この時は、表面上は、大きい打撲もけがもなく、帰国した。しかし、思い返してみるとこの時、レントゲン撮影では、頸椎がつぶれていると診断であった。頸椎がつぶれるほどのダメージは、こ

の時以外考えられない。当時は、脊柱管狭窄症と言われなかった。また、CTもMRIという技術もなかった。また、当時は、背骨の手術は、細かい神経を扱い、技術的に問題があるのでできるだけしないような風潮があった。

(尾下) 子供のころ背中の骨が曲がっていて「突発性側弯症」と診断されました。



背骨の湾曲症写真

提供：尾下浩一

水泳をしている際に母が体軸の異変に気付き、伊勢原の東海大学病院に行きました。「成長途上なので身長が伸びる際に更に進行する恐れがある」と言われ、その後、4年間硬い樹脂のコルセットを装着していました。入浴以外の時間は常に装着していたので夏場は相当暑く大変だった事を思い出します。

今回の脊柱管狭窄症との因果関係はわかりませんが。

その他

(芝) 入院中、リハビリで以前骨折した左足の爪が変形していたのが少し治った。先生がそういうこともあるから「お得ですよ」といつてくれたけど、びっくりした。足先の曲がり

が伸びて歩けるようになった。リハビリの先生が、「最近、整形外科の良い医者が集まっている」と言っていた。

(加藤) 私の場合、手術を3回してそのたびに回復してきた。その後の圧迫骨折もあり、腰痛と手足のしびれは再発し、現時点で大腿部のこわばりや右腕の芯の痛みで夜中に目を覚ますことがある。2021年6月に最初に手術をしてもらったクリニックに相談したが既に80歳をすぎているために、全身麻酔の手術は身体への負担が大きいため避けたい。痛みで我慢できないとか歩行ができなくなったら、手術を検討するという話になっている。

(芝) 食事は美味しかったけれど、入院前に食が細くなったから、おかずは食べるようにして、ごはんやパンの主食は半分くらいで調整した。おかずがアルコールで味付けしているのが、あって、自分が酒を切って10数年経過しているの、頭痛がして、医者と看護師に言ったら食事のメニュー表にアルコール禁止と書いてくれた。

(芝) 症状軽減策として、①薬による痛み止め、②布製のコルセット着装、③ブロック中射による麻酔による軽減、④腰部手術による骨の削り。みなさん手術がいやだから色々考えるけれど、結局一番確実なのは手術だと思います。自分は高齢者だから、3週間の入院・手術で10万円、コルセット代が5万円(あとで区役所から補助がでる。

手術後、足のシビレなどを考えると、神経を阻害している箇所が1か所ではないのではないかと、考えてしまう。専門家の意見を聞きたいね。

2 脊柱管狭窄症と頸椎症の検査方法と手術

(1) 脊髄疾患概要

脊柱管狭窄症や頸椎症は、脊髄疾患と言われる。脊髄疾患とは、背骨の病気で神経が圧迫され、脊髄や神経の障害を引き起こし、痛み、しびれ、麻痺を起こす病気です。骨や軟骨が神経を圧迫して生じたりすることが多いが、骨そのものが痛んで症状を起こすこともある。脊髄疾患により、筋力の低下、しびれ、痛みがあなたの生活を困難にする。仕事や運動、日常のいろいろな用事がしにくくなります。脊髄の病気は多くの場合、徐々に進行する。頸部の脊髄の場合は、最初は手のしびれから始まり、次第に手の巧緻運動障害といって箸が使いにくい、ボタンが止めにくくなる。歩くときによくつまずいたりする。階段の上り下りの時に、手すりが必要になってくる。さらに、進行すると手足の麻痺のために物を持ってなくなり、歩けなくなる。

頸椎（首の骨）には障害を受けると回復しない脊髄なので症状が軽度な場合でも手術を行い、これ以上の悪化を予防する必要がありますが、腰椎（腰の骨）には脊髄は存在せず、症状が出現してからでも手遅れになることは少ない。脊髄の障害では、部位より下の部分は脳からの命令が手足の筋肉に届かなくなり、手足の感覚が脳に届かなくなる。頸椎などの上の部分で障害が起ると、それより下の神経の障害がでるので、大きな後遺症を残すことになる。

以上は、クリニックの先生から説明を受けた脊柱管狭窄症に関する説明である。

(2) 脊柱管狭窄症の検査方法

脊柱管狭窄症や頸症の診断には、CT 検査と MRI 検査がある。

CT 検査は、Computed Tomography: コンピュータ断層診断装置で行います。CT 検査は、X線を使って身体の断面を撮影する検査で 体内の様々な病巣を発見することができます。心臓、大動脈、気管支・肺などの胸部、肝臓、腎臓などの腹部の病変に関しては、優れた描出が可能で診断に使用される。

MRI 検査は、Magnetic Resonance Imaging: 磁気共鳴画像診断装置で行います。MRI 検査は、強い磁石と電波を利用して体内の状態を断面像として描写する検査です。診断のための画像を撮る技術という点では CT 検査と同じですが画像の撮影方法がまったく別で、MRI 検査では、X線を使わずその代わりに「磁場」を使用します。

脊柱管狭窄症は、神経が圧迫されることによってしびれや痛みとなって症状が現れます。神経は、背骨の中の脊柱管を神経の束が通っていますが神経はX線では写りません。そのため、脊柱管の中を通っている

水分（髄液）で判断します。脊柱管の中の水分（髄液）に反応する磁力をとらえて、映像としてとらえる装置です。装置から身体に磁力と言う電波を与え、その電波に共鳴する水分が出す微弱（電波）をとらえて、画像化します。実際の画像では、液体が白く映ることで確認できるのだそうです。ある部分が黒くなっていれば、液体が十分通れる状態にないことをしめし、確認できるのです。

従って、磁石を使うので磁場を乱してしまう金属やペースメーカーなどの機械類が体内に入っている場合は検査に適しません。しかし、MRIの長所は、骨の影響を受けにくく病変と正常組織の濃度差がわかりやすいことや造影剤を用いなくても血管を写すことができるのです。CT検査とMRI検査には、得意なところと不得意なところがあり、それを使い分けて使用する。検査の目的によっては2つ両方の検査をします。

（3）CT検査とMRI検査の体験

じっくり観察する時間はありませんでした。身体が通過可能なドーナツのような大きな装置があり、固定された寝台が、このドーナツのような大きな装置の中をゆっくり通過するようです。CT検査もMRI検査も、寝台のような装置にベルトのようなもので軽く固定されます。CT検査では、身体がドーナツの装置の中を通る際に特に大きな音はしなかったようですがMRI検査では、装置の中

を通る際に「ガンガン」とか「ガツンガツン」のように従来の検査では聞いたことがない大きな音でした。

検査する担当技師の方の話では、「検査をする脊椎や腰椎」を輪切りのように部分的に撮影するそうです。CT検査もMRI検査も検査中は、身体をできるだけ動かさないように注意されます。CT検査では、X線を使用して輪切りにした部分を撮影します。MRI検査では、X線ではなく、強い磁気（磁場：電波）を利用して断層写真を撮影するとのことでした。CT検査は、X線を使って身体の断面を撮影する検査。MRI検査では、X線ではなく、磁気を使って撮影すると言われます。CT検査は、胸部レントゲン検査として聞いたことがありますが、

骨などは、そのまま写真に撮影されます。骨折では、その部分が表示され、直ちに異常が検出されます。ガンや結核の診断では検査では、患部他の部分と異なって映像となって表れ、異常が検出されるそうです。

（4）入手できた腰椎のMRI写真

下の写真は、頸椎椎弓形成手術を受けた尾下さんが入手したMRI写真です。

2本の白い帯が見えますが中央の白い帯が神経の通路が映っています。中央の白い帯が一部狭くなっていますがこれは神経が圧迫されていることを表しています。

今回の10日間の入院でこの圧迫を除去する手術をしました。



腰椎 MRI 写真

提供：尾下浩一

(5) 頸椎椎弓形成手術

両手に痙攣するような厳しいしびれが発生し、急遽手術日程を早めて手術に至ったケースです。



手術前頸部 MRI 写真

提供：加藤文男

中央の白い帯が神経の通路です。下の部分が3か所黒く映っていますが神経が圧迫されているためにしびれとなったと医師の説明がありました。首の後ろの部分を開手術でこの部分の圧迫を取り除きました。入院は10日間でした。

次の写真2は、写真1で黒く映っていた部分が神経の圧迫が除去され、白くなっています。



手術後頸部 MRI 写真

提供：加藤文男

(6) 腰椎体固定手術の2例

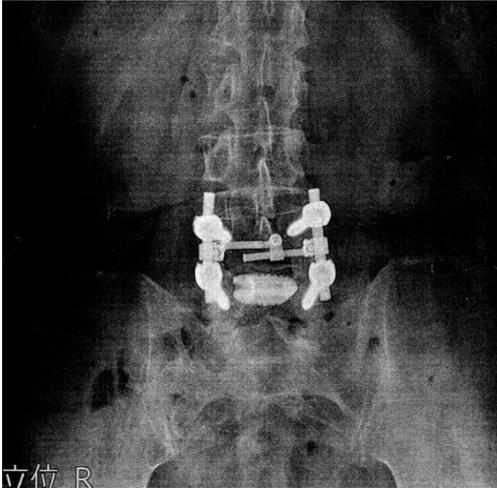
足や腰の痛みの対策に2つまたは、3つの腰椎間を金属で固定した手術です。

① 2つの腰椎を固定した手術

2つの腰椎を2枚のチタン製の板を4本のねじで固定した手術です。

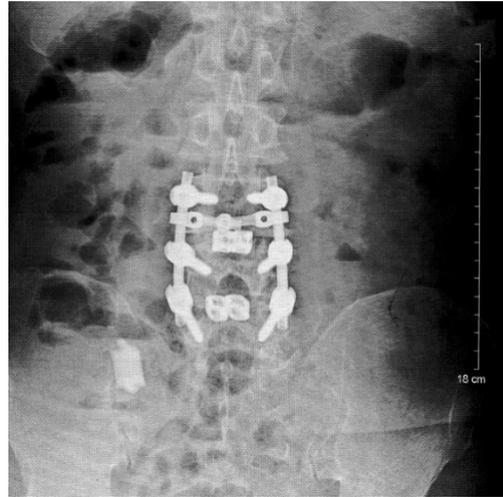
中央下部の白い部分は、補強した金属です。

3週間の入院でした。



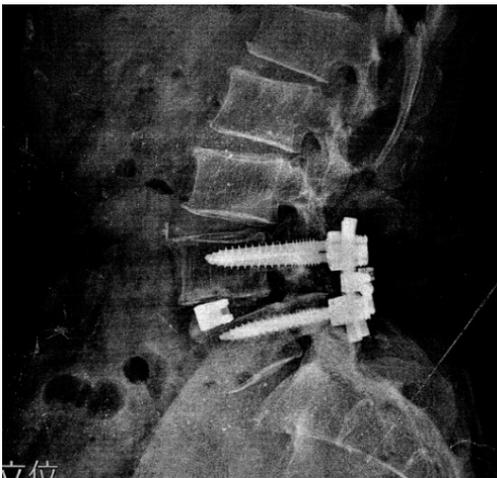
2つの腰椎固定手術写真
身体背面からのCT写真

提供：芝 忠



3つの腰椎固定手術写真
身体背面からのCT写真

提供：加藤文男



2つの腰椎固定手術写真
身体側面からのCT写真

提供：芝 忠



3つの腰椎固定手術写真
身体側面からのCT写真

提供：加藤文男

② 3つの腰椎を6本のねじで固定した手術

次は腰椎3つを2枚のチタン製板と6本のねじで固定した手術です。腰椎それぞれの間には、金属を挿入しています。

10日間の入院でした。

3 脊柱管狭窄症など手術のリスク

手術には、神経を圧迫している骨や靭帯を削り取り、圧迫を取り除く手術、腰椎や脊椎部の椎体同士をチタンなどで連結させる手術、椎間板の中に骨を詰め、補強し固定する手術などがある。たいてい全身麻酔で行いそれぞれリスクを伴うと言われる。今まで3名の体験では、術後の経過も順調のようですが病院内で聞き耳を立てていますと表に現れないリスクもあるようです。指摘されているリスクを集めてみました。

(1) 手術中の神経損傷

圧迫されている神経は、損傷されやすいと言われる。非常に狭い脊柱管の手術中に神経を障害する危険性がある。多くの人の場合、数か月で回復されるらしいが、まれに永続することもある。硬膜が破れると、中の髄液が漏れることもある。症状として、術後に頭痛、吐き気、などがある。希に永続性があることもある。チタンの板を入れてネジで固定するのでネジがずれて、神経に触ることもあると言われる。

(2) 隣接椎間障害

固定手術を行った場合、その部分の不安定さは抑えられるが、固定した上下の椎間板に負担がかかる。術後の経過で手術をしたところに障害の出ることもある。障害によっては再手術が必要になる。

(3) 感染症

手術の際の傷口に菌が付き化膿することがある。膿が溜まった場合や抗生物質で治らない場合には、再手術で金属を取り除き、洗浄して処置が必要になる。

(4) 血腫

手術したところに血液が溜まり、塊をつくることで神経を圧迫することがある。神経の障害を生じた場合には、再手術で血腫を取り除くことになる。

(5) ドレーンによる障害

固定術を行う場合、隣接椎間窓外の予防のために創部内に血液を取り除く管を入れます。その配液管の一部が、縫合の際に縫い込まれてしまうことがある。再手術で創内の一部を除去します。

(6) 肺血栓症

非常にまれには、手術後に下肢の静脈内に生じた血栓が流れて肺につきまり呼吸困難などの症状を起こすことがある。予防のために弾性ストッキングを着用することがある。

(7) 大量出血

高血圧の方や抗血栓薬、抗血小板薬を服用中の方は出血しやすくなる。予め、術前に自分の血液を採取して、保存しておき輸血する方法もあります。

4 体験手記：しびれと痛みと 24 時間の戦い

神奈川県異業種連携協議会
理事 加藤文男

現状の医療の限界を知る

腰痛が再発した、手足にしびれも感じるようになり、日常の生活にも不便を感じるようになった。厳しいためにクリニックで可能性について相談した。医者は、神経が圧迫されており、手術をすれば、その圧迫を取り除くことで解決できるという。医者からは、80歳を超えている現在の体力を考えると全身麻酔は負担が大きいので避けたほうが良いとのアドバイスがあった。しかし、私はすでに2度腰の手術を経験しており、頸椎の手術も1度している。ほかに何らかの方法があれば、4度目の手術は避けたい気持ちもあった。

手術以外の方法では、ブロック注射や痛み止めで対応する方法もある。痛み止めは手術の際経験している。ブロック注射は、その都度相当痛い聞いており、一時しのぎで何度も繰り返すことになるようだ。

同じような患者が何人もいるがみんなは、現状の痛みやしびれを「だましまし期間を稼ぐ」のが最も多い選択肢とのことだ。しかし、応対した医者は、「どうしても我慢できなければ、手術をしてやる」と言ってくれた。その時同席した看護師からもなんとか我慢することをアドバイスされた。

私自身も背骨や腰骨などすでに3回の手術を経験しており、正直これ以上同じ手術は避けたい気持ちも強い。痛み止めも飲みたくないし、結局のところ「だましまし期間を稼ぐ」という結論にせざるをえなかった。

医師も看護師も理解できない

医師も看護師も、この脊柱管狭窄症の経験者ではない。患者の本当の痛みや苦しみを理解できているとも思えない。たくさんの患者から症状や痛みの訴えを聞いてその中からその時の患者の顔色や反応を見ながら答えているのだろう。患者には、痛みにも強い人や弱い人など耐える力にもばらつきがある。病院の医師も、神経の圧迫による痛みを取り除くために手術はできるが手術後に発生する私の問題に適切に回答することはできないようである。

医師も現在の技術では、ブロック注射か痛み止めの薬しか方法がないのであろう。医者に行けば、毎回痛み止めの薬を処方してくれる。私も処方された薬を入手して飲んでいく。痛みやしびれについて軽減する適切な処方箋は知らないと言わざるを得ない。情報を総合すると現在の技術では、解決は無理かも知れない

い。多分、このような症状になり、困惑している患者はたくさんいるのであろう。所謂医者から見放された患者たちである。彼らは、整体院などに駆け込むしか方法がない。最近街には、整体院の数が増えている。また、「自分で治せる」という冠を付けた本がたくさん書店に並ぶようになった。残念ながら私もこの種の本に頼らざるを得なくなっているその一人になった。そして私は、私なりの対処方法を手探りで探し出すことにした。以下、私が選んだ対応策で「だましまし時間を稼ぐ」方法を紹介する。

マッサージとストレッチ体操

毎朝6時ごろ目覚めて起きだすことにしている。一日で体調が最も悪いと思われるのは朝である。健康な人は、ぐっすり眠れた朝の目覚めが良い。私は健康人から外れているのは明白である。

まず目覚めたときに大腿部が強張っているのを感じず。そのまま起きだしても強張りのために小股でのチョコチョコ歩きになる。しっかり歩くことは難しい。整体師のアドバイスで起き上がる前に足の指と足首の屈伸運動や足を精いっぱい延ばす運動を寝たままでしばらく行うことにした。症状としては、若い時に運動を無理した時の筋肉痛と同じである。身体を動かす度に筋肉は抵抗して痛みを訴えるが、関節が痛むわけ

ではないのでできるだけ耐えて行う寝床の中での体操である。

立ち上がると階段の手すりにつかまって、足首と足指の屈伸を50回、スクワッド50回、ふくらはぎと膝の後ろのストレッチを10回ほど行う。そして、腰を真っすぐにして立ち、歯磨きと洗面を終了する。これで室内をゆっくりであるが歩行できるようになる。これが朝食までの日課である。夏の暑い時期は、ここまでで相当汗ばむ労働となる。

ストレッチ体操プログラム

朝食を済ませると脊柱管狭窄症のしびれを軽減するストレッチ体操を行う。これは千葉ロッテマリーンズの公式メディカルアドバイザーである酒井慎太郎氏の著書3冊を読んでその中から効果のあるといわれるストレッチを選んで私が編集したプログラムである。最近はこの一連の体操に整体師に推奨された骨盤の柔軟体操を入れた腰痛予防体操を加えた内容に改善した。肩や背中の筋肉のこりを緩めるストレッチ、スマホやパソコン操作で癖になっているストレートネックを強制するストレッチ、頸椎を正常な位置に戻すストレッチ、肩や背中の筋肉のこりを緩めるストレッチ、全身の関節の腰椎の「仙腸関節」に刺激を与えるストレッチ、神経の圧迫を取り除き、血流をよくするために腰関節を滑らかに動かすストレッチなどから構成される。さらに腰椎のゆがみを矯正し、

神経の圧迫を取り除くストレッチなど、全部で12項目ある。

これらの一連の体操を丁寧に行うと約1時間かかる。始めたばかりの時は、姿勢を正し、次のストレッチに切り替えるために時間がかかっていた。1年を経過した現在は、身体の動きも良くなり、40分余りでできるようになった。

この後午前中は、新聞や資料を読み、パソコンに向かう。現状で何か役に立つことをしていきたい。できる範囲でやれることをすべてやってみる。そして、現状の体力が弱くならないように維持するために最大の努力をしてみようと頑張る気が起きる。何かに集中することでしびれも痛みも瞬間的に忘れることができそうである。第三者から見れば、「その程度のしびれや痛みなのか」としか思われまいだろう。なんと云われようともこれが現実なのだ。

歩行訓練のための散歩

昼食後、しばらくゆっくり休憩する。そして午後2時過ぎには、歩行訓練として散歩に出かける準備に入る。友人は、ジムと契約して毎日バスで通う。私の自宅近くに適切なジムはないので周辺の散歩となる。横浜は坂が多いので家を出ると直ぐに坂があり、階段もあり、その辺のジムと同じように鍛える環境に不足はない。機械や器具はないがジムの中に家があるようなものだ。ジムまで行く電車も時間もかからず、直ぐに

始められる。そんな負け惜しみを考えながら毎日を過ごす。

歩き始めは、大腿部に張りがあり、腰にも違和感や重い感じや痛みを感ずることが毎日である。腰の重みや痛みは、少しでも歩いた方が良くいか休みながらも歩いた方が歩く努力をする方が良くと脊柱管狭窄症の対策指南書には書いてある。これを実行しているのだ。ただ歩くだけでは、訓練にならないといわれるのでできるだけ大股で歩く。とにかく年齢にも「負けないぞ」と見栄を張って元気よく歩き始めることだ。

自宅を出ると 子供会が名付けた「じゃんけん坂」がある。なだらかな坂に続いて64段の階段がる。少し無理を承知で私は1段飛ばしで32回で昇る。息が上がりそうになるが登り切って残った坂を尾根道まで続けて上ることができれば体力の低下がない証拠だ。10年ほど前から外出するときはできるだけこの階段を使うことにしており、必ず1段飛ばしで上がる。調子が今一つときは、上がったところで行き息が上がって道路までの坂を続けて登れない。休憩が必要になる。この階段は、体力低下のテスト用のバロメータなのだ。

坂と階段を昇れば、尾根道はほぼ平坦になる。老人にありがちな、「とぼとぼ歩き」や「よぼよぼ歩き」にならないように胸を張って、両方の手を振って歩く。81歳ともなれば十分老人の部類に入るが年齢相応に見られないように見栄を張って歩

く。ただ歩いただけでは、訓練にならないと注意されるのでできるだけ大股で歩く。とにかく、「負けないぞ」と元気よく歩き始める。膝が弱くなり、時々膝に違和感が出てふらつくこともある。

尾根道に出て右へ曲がって2分も歩くと小学校がある。3時を過ぎれば、下校の子供たちとすれ違う。土曜日、日曜日には、サッカーチームや野球チームの子供たちの練習あり、その様子を横目で見ながら通り過ぎる。5分程度歩くと丹沢の山波、その後ろには富士山が見える高台がある。この高台から丁度西の方角に富士山がある。冬には雪をかぶった美しい富士山の姿を拝める。この富士山に向かって、足首の屈伸運動とスクワッドをそれぞれ50回行う。これが終わる頃には、汗が出てくる。首の運動と朝のストレッチ体操の一部を繰り返す。この間に時間によって丹沢山の手前を大島、新島、神津島、三宅島と調布飛行場間を往復する路線の航空機が南から北へ横切るのを見ることができる。米軍の横田基地への大型輸送機も時々目にする。こうして訓練の中に楽しみを見つける。

場所を変えてストレッチを

20分余りの運動の後、菊名池公園へ向かう。菊名池には、キンクロハジロやバンなどの野鳥がいる。季節により、カワセミの姿を追って写真を撮る愛好家が集まり、専門的な話を聞かせてくれる。

冬には、ガンなど渡り鳥の種類が増えてくるのが楽しみである。毎日同じようなコースを散歩するのであるが、少々の変化がみられる。公園の周辺でも足首の屈伸とスクワッドを50回繰り返し、さらに腕立て運動を30回ほど繰り返す。時間は約20分かけて行う。同じ場所での運動を避けて場所を移動して、雰囲気を変えてストレッチを繰り返す。

急坂道を選んで耐える

帰宅ルートには、できるだけ急な勾配の下り坂もコースに加えてある。急な下り坂では、大腿部だけでなく、膝やふくらはぎの筋肉にも意識を置いて、負荷をかける。5年ほど前には、突然ひざの力が抜けて前のめりに倒れそうになったのでこれへの対策のつもりである。最近、ひざの力が突然抜けるようなことは起きないのは、この訓練の効果かもしれない。この毎日1時間半ほどの歩行訓練のための散歩は、悪天候や雨後に地面が滑る危険のない時以外欠かすことはなく努力している。この訓練歩行の後、体力が残っていれば、「猫の額」ほどの小さな庭の植木の手入れをする。

入浴後は体調が最良

私は入浴が嫌いではない。自宅での入浴は、1年間欠かしたことはない。自分の好きな温度で手足のしびれをもみほぐしながらゆっくり入浴

する。湯の温度は、40度にセットしてある。温度が下がればその都度追い炊きしながら十分温まるまで繰り返す。一度浴槽から出て、少し体温を下げてもう一度温まる。首や肩の周辺を温めるのがしびれの予防に効果があるようだ。従って、入浴には、毎日30分ほど時間をかける。入浴後は、しびれや痛みは、まったく感じなくなり、1日で体調が最もよいと感ずる幸せな時間となる。背骨の中の神経も緊張から解放され、痛みやしびれもなくなるようである。

ヨガの強い呼吸を1500回

直接脊柱管狭窄症に関係なく、身体が楽になる方法があればできるだけ取り入れる。ヨガの呼吸法もその一つである。10年ほど前に毎週1回の指導を3年ほど受けたが、しばらく中断していた。体調を戻すために再開した。座禅の姿勢で息を強く吐くことを意識した、呼吸法で就寝前に左右の鼻孔でそれぞれ500回、そして最後に両方の鼻孔で500回、合計1500回精神を集中して行う。テレビを見ながらでもできないことはないが、意識を集中するにはテレビも消して集中する方が効果が高いようである。再開して2週間であるが、その後ぐっすり眠れて、腕のしびれで夜中に目覚めることが少なくなってきたように思われる。継続する意味がありそうだ。

こうして私の脊柱管狭窄症や頸椎症対策の一日の活動が終了する。うまく眠りに入り、翌朝迄ぐっすり眠れることを期待しながら就床である。それだけで終わらないこともある。理由をはっきりしないが、夜中に腕にしびれや痛みを感じて目を覚ますこともある。痛みの程度により、寝床で起き上がり、右腕の自己マッサージを行う。うまく効果ができれば、3分くらいでまた眠りに入ることができる。こうしてみると脊柱管狭窄症や頸椎症対策のために1日24時間近く戦っているようなものである。何かに集中していれば、しびれや痛みを忘れることができる。昼の間は、この苦しみから逃れるために意識を他に向ける努力をする。そうして時間を過ごしている。

家族もどうしようもない

第三者から見ると「その程度のつらさなのだろう」と思われるだろう。そして「その程度ならば、医者の言うように「だましまし過ごせばよい」との結論になる。しかし脊柱管狭窄症の症状を第三者に理解してもらうことは難しい。

「しびれがある」とか「腕が痛む」「大腿部に張りがあって、歩きにくい」とか言っても、本当に理解できるのは、同じ症状をもつ者だけである。そのつらさを聞かされても、助ける方法がわからない。家族だってどうしてよいかわからず困惑するだけである。困らせる無駄はしたく

ない。これがこの病気を抱えたすべての患者の気持ちであろう。この気持ちを理解できるのは、これを経験した人たちだけである。経験した人でも治ってしまえば、このつらさを忘れてしまうものなのだ。このような堂々巡りを繰り返したのち、他人

を困らせることはしないように黙ることになる。こうして、24時間黙って厳しい戦いを続けている。

ここでは、脊柱管狭窄症や頸椎症を病んでいる人の中には、24時間戦っている現実もあるということを知っていただきたい。

特集執筆者プロフィール

芝 忠 (しば ただし)

1942年生

1966年東京都立大学工学部卒業して、すぐ神奈川県庁に入り、旧工業試験所で研究及び技術支援業務に携わった。1976年頃から異業種交流を手掛け、1984年に神奈川県異業

種グループ連絡会議(異グ連)を結成して以来事務局を継続して担当。2000～2011年関東学院大学経済学部講師(地域経済・中小企業)。現在イグレン専務理事。

尾下浩一 (おした ひろかず)

1964年生

東海大学政治経済学部卒業
富士通関連子会社にてシステムエンジニアとして従事。1993年尾下紙業株式会社入社。営業、設計部門、

生産管理、製造部門を経て2011年工場長。2014年取締役社長、2016年代表取締役に就任 現在に至る。

加藤文男 (かとう ふみお)

1941年生

通信機器製造会社で品質管理・品質保証部門を担当後、映像機器、通信機器の欧米地区の営業担当、国際調達、海外工場支援を担当。中小企業

大学校講師、神奈川産業振興センターのビジネスコーディネータを経て現在イグレン理事。中小企業診断士

対話のための図書館 図書館のための対話 (5)

元神奈川県立図書館館長
イグレン会員 林秀明
神奈川県異業種連携協議会
専務理事 芝 忠

●はじめに 工業試験所

芝 図書館についての林さんとのディスカッション、5回目になります。今回は、青少年問題について、議論したいと思います。

林 青少年問題ですか。芝さんは、昔から、問題を設定するのが好きだったですね。問を設定しながら、考えるといろんなことが見えてくるというのが芝さんの持論です。ただ、青少年について、どういう問題を設定されたのか、気になります。

芝 私が大学を卒業して、工業試験所で仕事を始めたのは1966年です。ええ、高度成長期のど真ん中。神奈川県が440万人ほどでしたが、10年間で640万人ほどになります。

林 そうですね。私は1976年の入庁ですが、そのころは650万県民とか700万県民という言い方をしていました。

芝 10年間で200万人の増、1.5倍よね。そのほとんどが社会増、そこで生まれたのではなくて、他の地域から移ってきた人たちです。

勤労青少年という言い方をしていました。ええ、勤労者の中に少年も入ります。15歳や18歳で地方から出て

います。きちんと組織の中で仕事をするということを学ぶ、これは社会教育の役割だったんです。

工業試験所の仕事の中にも人材育成がありました。様々な講座を開いたりして、工場の現場で働く人材の育成に努めていました。ええ、工業試験所も社会教育機関であったと思っています。

●インドの農村図書館

林 それが技術情報センターなどのお仕事に繋がっていくんですね。専門図書館づくり、まさに社会教育です。

農業試験所・農業改良普及所の仕事も、生産と生活の両面からの社会教育活動でした。昭和40年ごろまでは、生活という面では、冠婚葬祭の簡素化だとか、食生活の改善だとか、生産という面では、コメの増産に向けての取り組みが盛んでした。昭和40年代半ばから、コメ余りの中で、転作が進みます。転作作物を中心に高付加価値化を進めようということで、転作作物は大豆などが多かったですから、味噌などへの加工やその販売を行うなど、今でいう農業の6次産業化も農業改良普及活動による人づくり、組織づくりの成果が

大きかったんです。

インドの農村地域の図書館では、生活改善や農村改革か、農業の6次産業化などの取組みを進めています。国際図書館連盟の世界大会などで誇らしげにその成果が発表され、多くの国に波及しています。

ニューヨークの公共図書館は映画にもなりましたが、20年ほど前に菅谷明子さんや岩波新書「未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—」でビジネス支援などの取組みを紹介しました。どうすれば未来をつくる図書館になれるか、多くの図書館で様々な取組みが行われています。

でも芝さんがおっしゃるように、様々な行政分野の試験研究機関や普及機関を社会教育機関だと考えれば、いいわけですね。

●ニューヨーク公共図書館

芝 ええ、そのうえで、図書館にきちんと様々な社会教育施策を連携させる役割、その窓口となる役割を担ってもらいたいと考えています。ニューヨーク公共図書館の映画を観ましたが、図書館が様々な産業支援の窓口・ゲートウェイになっているのですね。

林さんが、10年ほど前、図書館雑誌に専門図書館群構想を発表されました。県立図書館が総合図書館を標榜することをやめ、きちんと専門分野を明確に専門図書館になるべきである、そのうえで、県の試験研究機関や博物館、美術館などの専門図書館との連携によって総合性を確保すべきである、という

主張だったと思います。

私はさらに踏み込んで、県行政の社会教育的な側面をきちんと連携させるべきで、その中核に図書館があっただけだと思っています。

各事業部局が社会教育的な事業を展開する際に図書館と連携する。例えば、男女共同参画の取組みなどです。

後に女性センターと名前を変えましたが、昔は、婦人総合センターに山川菊栄文庫を核にする女性専門図書館がありました。女性センターは今は解体され、藤沢土木事務所の庁舎の一画に男女共同参画センターの看板を掲げています。山川菊栄文庫・女性専門図書館は県立図書館に移管されています。

それならば、男女共同参画課の事業は図書館を使ってやる。女性のエンパワーメント講座なども、図書館と男女共同参画課の共同事業として組み立てるようなこともあっていいと思います。

●県立川崎図書館

林 県立川崎図書館では、産総研と組んで、知財講座など昔から連携を進めていました。科学についての講座などでも、早い段階から、ワールドカフェ方式を導入し、サイエンスカフェと銘打って展開していました。産総研や農業技術センターだけでなく、JAXAや理化学研究所、JAMSTECなどとの共同事業を実現しています。それらの研究機関は科学技術人材の育成に力を入れていて、社会教育機関としての役割を担っています。地域の社会教育力を持っている機関との連携も県立図書館の重

要な役割だと思います。ええ、神奈川県では県立川崎図書館がその役割を果たしています。

芝 新しい取り組みはいつもか県立川崎図書館ですね。なぜ、为什么呢か。

林 県立図書館の分館になりたくなかったのだと思います。県立図書館の一番大切な機能は何かを自らに問うて考えた結果です。

図書館とは何か。図書館事典などでは、「図書およびその他の資料(図書館資料)・情報を収集・組織・保存して利用者の要求に応じて提供する公共サービス機関」とされ、「その機能は、資料・職員・場所(施設)の3要素によって支えられている」とされるんですね。実際には、3要素に加え、図書館ネットワーク＝「館種を超えた連携」が図書館機能を支えているんです。

都道府県立図書館の最も大切な機能は館種を越えて、図書の相互貸借やリファレンスの相互支援等などを行うこと、そのシステムの構築と運営でなんですね。

それを象徴するものが、資料の相互貸借の集配車です。紅葉坂の県立図書館は、市や町の公共図書館のネットワークの核となって、集配車を巡回させています。昔は、図書館の脆弱な市町村が多かったですから、地域の文化活動の拠点などにも届けていました。県立川崎図書館は企業などと専門図書館のネットワークを作り、相互貸借の核となっています。以前は県内の工場や社員寮などの読書施設や読書会などに

集配車で本を届けました。大磯など東海道沿線の工場・職員寮もめぐりました。移動図書館車を青雲文庫と名付けていました。ええ、青雲の志をもって、地方から出てきた若い人たちをターゲットに想定しました。

芝 寮の読書会ですか。寮では工学や自然科学の専門書の輪読はあまりやらないですね。

林 青雲文庫の蔵書には社会科学、社会の仕組みに関する本も多かったです。都立大学の塩田庄兵衛先生の本なんか、まとめて貸して、読書会のテキストに使われていました。

講演会も図書館の重要な業務ですが、開館当時の講演会のテーマをみても、工業や産業に関することだけではありません。

1959年3月の一回目は「南米の工業事情」と「国産技術の振興について」ですが、5月の第2回目には中根千枝さんが登場します。テーマは「民族学的なものの見方について」。そのあと、ロケットの糸川英夫さん、小麦の遺伝研究の木原均さんと工学・自然科学が続いた後、白井吉見さんの「文学と人生」、深田久弥さんの「日本の山、ヒマラヤの山」、大河内一男さんは「戦前、戦後の労働運動について」、黒川俊雄さんの「サークルの運営と問題点」、田中寿美子さんの「普段着の婦人会活動」、一年目はこんな感じですよ。

芝 広く、若い人たちの関心に応える内容ですね。

中根千枝さんの代表作「タテ社会の人間関係」は私が働き始めたころに話

題を集めた本です。たしか 70 年安保の前年ですから、1969 年ですね。

その 10 年前 1959 年に講演会の講師に招くなんで県立川崎図書館はすごいですね。

田中寿美子さんって、社会党の代議士だった田中さんですか。

林 そうです。講演当時は、婦人問題の論客として活躍されていました。田中さんは、確か、山川菊栄さんが労働省の婦人少年局長の時の婦人課長です。講演の翌年 1955 年の総選挙で当選します。

芝 黒川俊雄さんの書かれたものはけっこう読みました。労働組合の運営と問題点についてのものですね。講演のテーマは「サークルの運営と問題点」ですか。どんな話をされたか、興味があります。読んでみたいですね。

県立川崎図書館では、当時、講演をまとめて刊行物にしていたと思うんですが。京浜工業地帯の講演記録を読んだことがあります。

黒川さんの「サークルの運営と問題点」は冊子になっていますか。

●京浜産業史講座

林 京浜工業地帯の講演記録って、「京浜産業史講座」ですね。系統立てて開催した「講座」は冊子にまとめています。ただ、通常の講演会は残っていません。

芝 系統立てて開催する講座ですか。主催する図書館の力量が問われますね。「京浜産業史講座」からは、力量だけでなく熱量も感じました。

長洲一二さんや塩田庄兵衛さんも書かれています。巻頭は確か、今井則義さんだったですね。

林 ええ、そうですね。すごい人選、組み立てです。

昭和 35 (1960) 年から 38 (1963) 年にかけて開催された講座「京浜工業地帯」を冊子にまとめたものです。4 回に分けて毎年 10 月に集中講座で開催しました。その年度末、3 月に刊行物にまとめています。

第 1 集は「京浜工業地帯—その歴史と現状」(1961)、第 2 集は「主要産業の変遷」(1962)、第 3 集は「主要産業の変遷(2)」(1963)、第 4 集は「通史篇」(1964) です。

井汲卓一さんや長洲一二さんが「日本資本主義講座」を編むのはそのあと、1966 年です。

芝 対談を編集するとき、講師陣やテーマをコラムして、掲載しましょう。あと、講座のねらい、図書館の意図の部分も大切です。

林 そうですね。

講師陣とテーマは手もとにあります。ねらいと意図は図書館で調べてきます。

芝さんの感じた熱量を読者の皆さんに



京浜産業史講座 第1集 京浜工業地帯—その歴史と現状— 1961

産業史研究の意義 今井則義 産業史研究の方法 遠藤輝明 京浜工業地帯の産業構造 長洲一二
京浜工業地帯成立史 服部一馬 電気と自動車 星野芳郎 私の見てきた京浜農業地帯 根本茂

京浜産業史講座第2集 主要産業の変遷 1962

産業立地と工業地帯 風巻義孝 電力産業 安達昌平 金属工業 雀部孝雄 機械工業 星野芳郎
化学工業 柴村羊五 食品工業 服部一馬 造船工業 広岡治哉 中小企業 小林義雄

京浜産業史講座第3集 主要産業の変遷(2)1963

京浜工業地帯の資本構造 中村秀一郎 電子工業 岡修一郎 技術史から見た京浜工業地帯 山崎
俊雄 化学工業(2) 柴村羊五 ガラス工業紙 泉澤弥太郎 下請制工業 伊東岱吉 産業機械と工作
機械 山辺孝 非鉄金属工業 黒子孟夫

京浜産業史講座第4集 通史篇 1964

京浜工業地帯概説 楫西光速 明治末、大正期 服部一馬 昭和恐慌期 島村龍蔵 戦時体制期 安
藤良雄 戦後復興期 長田五郎 コンビナート時代 清水嘉治 京浜工業地帯における労働運動史
塩田庄兵衛 京浜工業地帯における経営史 野口祐

はしがき

ここ数年、産業史の研究は各方面から関心が寄せられ、また、多くの人々によって研究が行われてきた。しかし、川崎市を中心とした京浜工業地帯の研究はこのような中であって、不思議と真正面からとりくまれなかったのである。このことの原因は第一に対象とする「京浜工業地帯」の範囲が広く、また伏在する問題が非常に多いこと、第二に、その発生が他の工業地帯に比べて早く、しかも、関東大震災と戦災を受けて研究資料は散逸してしまったこと、第三に、地方の大学、研究機関は中央の資料入手が困難なこともあって、いきおい、地元の史料収集を行い、研究を進めているが、川崎・横浜では研究者が中央と同じ条件にあるため、一地方の研究よりも全国的な研究に力を注いでいることなどがあげられる。

そこで本館としては、(1)これまでの全国的な産業史の諸研究を京浜工業地帯を中心にして取りまとめ、(2)各地企業内に分散している諸史料を収集し、(3)史料のうらづけの上に関係者の口述筆記をとるなど、関係資料の収集、作成につとめ、他方で研究者の研究を有機的に組織すべく「京浜産業史講座」を開講した。

本年度は、その第一着手として、本講座の基底たるべき産業史についての意義の解明と京浜工業地帯の概要を把握するための”入門的”講義に絞って行われた。本書はその講演筆記を要約したものである。

1961年2月

神奈川県立川崎図書館館長

西田弘生

も感じていただきたいですね。

芝 講座も社会科学的な観点からも本格的なものですし、それに照応する蔵書構築もなされていたわけですね。

林 そうですね。どういう図書館をつくりたかったのか。「神奈川県立川崎図書館 10 年史」を持ってきました。ちょっと読んでみます。

「戦後 10 数年を経て、戦災後の復興事業も軌道にのり、逐年、川崎市が京浜工業地帯における商工業・産業都市としてのめざましい発展を呈し、昭和 30(1955)年以降、高度経済成長の所謂“神武景気”とともに、産業人口、特に自然増よりも社会増による地域人口の激増ぶりを示し、その急激なテンポに追いつくべく、当然の問題として、社会的文教施設の振興をはかろうとする機運がたかまり、本館の設立へと導いたといえよう。

すなわち、……、急増する商工業に従事する青少年勤労層・企業関係者 — 特に中小企業 — のための教養福祉対策としても、近代的設備と機能を兼備する充実した図書館施設が、特に熱望されたわけである。」

芝 勤労青少年の教養福祉対策ですか。

県立川崎図書館は 1958 年 12 月の落成・開館、翌 1959 年 1 月の開業です。その翌年 1960 年には「県立足柄青年の家」が 1962 年には「県立青少年センター」ができます。1964 年からは青少年会館の建設が始まり、1974 年までに 18 館が開館するんです。1970 年代には、青少年キャンプ場、サイクリングコース、臨海青少年センター、藤野・

篠原台青少年の家なども整備されます。

県立川崎図書館が青少年施策の先駆けなんですね。

林 県立川崎図書館は工業図書館を目指したのに、川崎市の要望を入れて、勤労青少年などのための公共図書館機能を担うことになった、二足の草鞋を履いた図書館だった、というような説明がなされることがありますが、そんなことはありません。

今でこそ、青少年施策は市町村の仕事であると言われますが、当時は、県の施策の一丁目一番地だったんです。そして県立川崎図書館はその施策を担う図書館だったんです。

●青少年事務局

芝 そうですね。1969 年には青少年事務局という部に準じた組織まで作っています。青少年企画課、青少年育成課、青少年施設課という 3 課で構成される組織です。

昔同じ県職員アパートにその青少年企画課の方がいたんです。青少年問題についていろいろ議論しました。後年、その方が工業試験所の管理部長でられるんですが、私は組合などをやっていて、立場は違いますが、仲良くやれました。

青少年事務局ができるまでは、青少年政策の所管は、民生部と教育委員会だったです。社会教育的なところは教育委員会、非行防止的や福祉的なところは民生部です。

県立青少年センターができた当時(昭和 37(1962)年)ホールは社会教

育施設だからということで教育委員会の所管の神奈川県立青少年ホール条例で、そのほかの部分には青少年の福祉のための施設として規則で青少年センターとして設置されていました。

これはひどすぎるというので、2年後 1964 年に一本化して神奈川県立青少年センター条例になります。所管は民生部です。

林 青少年事務局ができるまで、まだ、5年もあります。青少年対策をきちんと総合的に展開できるのでしょうか、

芝 ひとまず、調整の仕組みを作って、総合化・一元化しようとしています。その1964年に、知事を本部長とする青少年総合対策本部を設置し、青少年施策の基本方針を作ります。

しかし、それは従来の教育委員会の考えを踏襲するもので、青少年の健全な育成は家庭が基礎になるという立場から、第一に明るい家庭づくり、加えて公德心の高揚、青少年非行の防止、最後にやっと勤労青少年の福祉の増進が重要であるとするものです。

林 地方から神奈川に移り住んだ青少年についての方針ですよね。それが明るい家庭づくり……ですか。

●職業訓練校

芝 その基本方針ですが、青少年事務局ができると同時に、全面改訂されました。勤労青少年の教育・訓練の振興と福祉の増進が重要課題となりました。私は入庁3年目でしたから、県の政策の転換を印象深く覚えています。

ええ、職業訓練の充実強化なども含めて、産業労働部門でも新たな施策展開に繋がります

林 そうですね。職業訓練施設は当時は勤労青少年などに基本的な技能を訓練する場でした。地域の事業所と連携して、そこで働く人たちの現職訓練を行うという観点から比較的小規模の職業訓練校が県内に10か所ほどありました。

デュアル訓練という言い方をしていましたが、職場でのオン・ザ・ジョブ・トレーニングと職業訓練校での座学や基本的な訓練とを並行してやっていました。

芝 今では、総合職業技術校2校に集約されています。フライス盤も2軸から5軸のものになるなどしていますが、当時アナログの2軸フライス盤で訓練を受けた人たちが、NC5軸の機械で新たな技術技能を身につけています。

ときどき、県の役割は高度な訓練であって、2校に集約されてその本来の役割を果たすことができるようになった、というような乱暴な議論を聞くことがあります。

職業訓練に求められる役割が変わったのであって、当時もきちんと県の役割を果たしていました。

当時は、青少年政策は産業政策と不可分の県の政策課題だったと思います。県立川崎図書館について工業の専門図書館だからこそ、青少年図書館の側面を持っていたのだと思います。



移転前、川崎区富士見町の県立川崎図書館の書架

●なるにはブック

林 今も県立川崎図書館に期待されているのは、青少年の科学教育、職業教育です。

「なるにはブック」というシリーズがあります。ペリカン社で出している本で、青少年向けの職業紹介の本で、これまでに160冊、160の仕事について、どんな仕事なのか、その仕事に就くにはどんな勉強をして、どんな資格を取ればいいのか、どんなキャリアを積みばいいのか、紹介しています。

「なるにはブック」、一般名詞でも使われていますが、県立川崎図書館には様々な「なるにはブック」が揃っています。

また、「モノづくりの現場で役立つ算数・理科」なんていうシリーズもあります。

芝 県立川崎図書館が川崎区の富士

見町から高津区溝口のかながわサイエンスパークの中に移転するとき、モノづくりの専門図書館になるので、青少年の図書は廃棄するという方針が出され、絶句しました。

林 県庁の中で政策を提案しても、選択と集中がないと聞いてもらえません。「青少年の図書は市町村の図書館に譲渡します。青少年向けのイベントも市町村の図書館に実施してもらい県立川崎図書館は支援します、廃棄しないでもっと活用します、」とか言っていました。

知恵者がいたんだと、思います。そんな条件で引き取ってくれる図書館などありません。廃棄しないと言ったのですから、県立川崎図書館に残っています。

大人にも入門書として役に立つとか言って、子供向けの図鑑なども残って

います。

芝 残って、よかったです。

ただ、結果として図書は残ったかもしれないませんが、失ったものも大きかったと思います。この進め方、プロセスの中で図書館は信頼を失いました。

林 そうですね。図書館にとって一番大切なものは市民の信頼です。県の教育政策への信頼も損ないました

芝 ものづくりの専門図書館で、青少年向けの図書を扱わないなんて考えられません。産業界、誰に聞いても、モノづくりの課題は担い手づくり、科学技術人材の確保です。学校教育と社会教育の両方ですが、青少年への理科教育の充実が課題です。

林 そうですね。ようやく、学校教育。学校図書館の話になりそうです。

今日も、時間がというか、紙幅がありません。

今回は、学校図書館の思い出から始めませんか。私は石川県の片田舎の小学校で6年間学びました。スプートニクショックの中で、理科教育にいろいろな試みが導入された時期でした。テレビを活用した視聴覚教育なども始まります。理科の授業での活用が多かったように思います。

あと、高専（高等専門学校）の制度ができるのは小学校の5、6年の時でした。ちょうど中学を卒業するころに石川県にも国立の高専ができるということで、理科を一生懸命勉強しだした子もいました。

今回は、そんな話から始めませんか。芝さんも予告編を。

●「図書館の日本文化史」

芝 予告編というわけではありませんが、最後に本を紹介させてください。

昨年、2022年10月に出版された「図書館の日本文化史」です。ちくま新書の一冊で、国立公文書館の館長だった高山正也さんが書かれものです。

帯に「古代から現代までのすべてがわかるはじめての図書館全史」と紹介されています。

確かに、約300ページのうち200ページが昭和までの説明で、現代及び未来の図書館論は100ページといったところですよ。

奈良時代の正倉院や平安・室町時代の貴族の私邸を利用した文庫、鎌倉時代の金沢文庫、江戸時代の将軍及び各藩での書庫等は基本的に支配階級の子弟の教育の必要性から、その時代、時代の最先端の書籍や文書が中国大陸からの輸入物を含めて収蔵されていました。いわば先端文化の情報が教育のため集積されていました。図書館機能は教育の柱の一つでした。

幕末の各藩の活動だけでなく、寺子屋制度も含めて世界に冠たる、国民の悉皆教育制度となっており、幕末の日本の識字率は当時、世界最高といわれていました。明治以降の急速な近代化のベースとなったわけです。

その図書館機能が支配階級の子弟教育の重要な柱として位置づけられていたという指摘は私にとっては目から鱗でした。

実際、東京大学や京都大学に文献収集の予算がしっかりとついていること

もうなずけます。学術の振興は単に学問・文化の発展をめざすだけではなく、ときの支配階級の子弟教育機能としての役割が鮮明だったということです。

岸田内閣が国立大学のごく一部だけを対象としたノーベル賞級の研究費配分計画を提案していますが、本来の支配階級の子弟教育方針から鑑みても非常に狭く、それが実現すると自分たちの後継者育成にすらマイナスの結果しかならないような気がします。

林 私も、高山さんのファンで、この本も読みましたが、芝さんの着目点はすごいですね。読み込み力っていうんでしょうか。

芝 図書館に対する占領政策についての論考も面白いです。日本の非軍事化を目指して、基礎・基盤である教育、とくに社会教育・図書館を改革しようとするくだりです。

私自身、戦後の日本の科学技術政策の変遷に冷戦構造の下でのアメリカの政策転換があったと感じています。そのことを組合の機関誌などに発表してきました。

林 次回もまた、議論が広がりそうですね。

芝 次回こそ学校教育、学校図書館をテーマにしたいと思います。

林秀明（はやし ひであき）

1952年石川県生まれ

1976年、神奈川県庁入庁。土木部、総務部、企画部、福祉部、環境部を経て、京浜臨海部活性推進課長、県土整備局参事、〃参事監（住宅供給公社理事）、県立図書館長、県立川崎図書館長。2011年3月退職。現在、図書館問題研究会全国委員など

芝 忠（しば ただし）

1942年東京都生まれ、

1966年東京都立大学工学部卒業して、すぐ神奈川県庁に入り、旧工業試験所で研究及び技術支援業務に携わった。1976年頃から異業種交流を手掛け、1984年に神奈川県異業種グループ連絡会議（異グ連）を結成して以来事務局を継続して担当。

2000～2011年関東学院大学経済学部講師（地域経済・中小企業）。

現在イグレン専務理事。

『中途障害者が中途障害者を支援する福祉吟詠教室の紹介』

イグレンスタッフ 指方順一郎

1 はじめに

「鞭声粛粛 夜河を過る・・・」と聴いて多くの方が『詩吟』を想像するでしょう。しかしその中に詩吟をもっと深く知ってみたいという人は何人いるだろうか？多分極く少数でしょう。「どうですか、『詩吟は健康に良い』から一緒に詩吟をしませんか？」と言うと、「いやあ、そんなつもりはありませんよ。漢詩はちょっとね。何が面白いの？」と言う返答が大多数です。こういう私は吟歴約 40 年です。きっかけは会社上司が詩吟師範位を取得し、弟子を取ることが出来る様になり、私に白羽の矢が立ったことでした。但し弟子になってすぐ詩吟に夢中になった訳ではなく 1 年間は『聴くこと』から始まりました。『詩吟は聴く 7 割、吟じる 3 割』といわれていますので正しい登竜門であった様です。その後、師匠の師匠から「詩吟に上手下手はありません。吟じている時、その情景を作者の気持ちになって、自分が如何にその中に溶け込むことが出来るかが最も大事なことです。」とアドバイスを受けたことで詩吟の世界に一步踏み入れました。詩を深く読むことにより先人の生き方を学び、更に吟道を通して人の道の在り方を教えられ、聴く人と感動を共有することが出来ると思いました。しかし感動を与えるには未熟で修練がもっと必

要と感じています。他方、私は「詩吟は健康に良い」と言って皆さんに声をかけていましたが、当事者の私が脳内出血を発症し面目ないことです。本稿が『誰にでも思わぬことが起こる典型例』あるいは『復活の物語』として少しでもお役も立てば幸いです。

2 詩吟の歴史

「詩吟はいつから始まったの？」という質問をよく受けますが、幕末の漢学塾で漢詩や論語を素読する際に塾生が適当な節をつけて朗読したことに端を発したと聞いています。確かに節を付けると難解な漢文・詩文が身近になり覚え易かったでしょう。子供の頃見た映画に、桂小五郎が京で新選組に襲われた時に鞍馬天狗が白馬に乗ってさっそうと助けに来る場面に胸躍らせましたが、その映画では「鞭声粛々・・・」と吟じていた場面があった様な気がします。各地の塾でばらばらだった流派を纏めた大正昭和を代表する吟詠家の一人が木村岳風師で公益社団法人日本吟道学院の祖に当たります。満州事変から太平洋戦争までは青年学徒の士気を鼓舞する目的で広く詩吟が奨励された様です。旧制高校生の寮歌放吟はその延長線上と思います。二度と繰り返すべきでない戦争という悪しき歴史の反省から、戦時の吟詠活動が偏見に

つながり詩吟に類することが戦後教育の場から敬遠されたのかもしれませんが。私は旧制高校寮歌祭に好んで参加した一人ですからこの様な偏見は残念でありません。良い所までもが排除されてしまった気がしますが、その結果詩吟は大衆化・女性化・娯楽化へ傾斜して別のステージを求めていったと思います。いずれにしても私は詩吟の根本は同学院の憲章に掲げられている「世界の平和」と「人類の福祉」と自覚しています。

3 脳卒中発症

「べんせいしゅくしゅく、夜、川をわたる・・・」と毎朝出勤前に洗面所で吟じ、一日が始まるのが長年の習慣でした。そして自分で「今日も調子良いなあ!!順調だ!!」と勝手に納得し健康管理のバロメータにしていました。サラリーマン生活は日本酸素(株)に 1968年 22歳で入社し設計、情報、開発部門を 60歳の定年まで、更に第2の勤務として子会社日酸 TANAKA(株)勤務を埼玉県に単身赴任しました。65歳で定年になった私は 2010年第3の職場として埼玉県高压ガス溶材協会事務局長として勤務しました。43年間の会社人生で座右の銘としたことは『それは私に関係がある』そして『それは出来る』でした。65歳までは健康診断で何一つ引っかからず、血圧が少し高めといっても特に体調不良ではないので何ら気にすることはありませんでした。詩吟は師範格を取得し教場指導者でストレスがたまることはありませんでした。

定年前セミナーでは『さしかた中小企業診断士個人事務所』と『詩吟道場』を開設すると発表したことを思い出します。この様に第3職場に勤務した65歳までは全てが順風満帆であり、いずれその職場を辞した後も何のハードルもなく夢は実現するものと思っていました。しかしその職場に事務局長として出勤すると潜在的問題を抱えている気がしましたが、持ち前の『それは解決できる』と気持ちの昂ぶりも感じていました。

発症は 2010年、第3職場に勤務し3ヶ月経過した時で65歳でした。妻の買い物に同行した年末の夕方、スーパーを出た所で右脳の奥でプツンと何か切れてドロツとした液体が右脳の中で流れ出した気がしました。何か変だ、とにかく家に帰って横になった方が良いと思い、自家用車のハンドルを握り助手席には買い物を終えた妻がいました。そのスーパーから自宅まで車で10分位の距離で、私はその時点で妻に何か変な具合とは言いませんでした。しかし運転中左へ左へと車が寄り妻から「電信柱にぶつかるわよ!!」と何回か注意されながら、約10分後自宅の駐車場に着き妻は先に買い物袋を下げて自宅に入った訳です。私はサイドブレーキを左手で引いたが殆ど力が入らない、やっとサイドブレーキをかけるが次には歩行がままなりません。フェンスや植木に掴まり倒れこむ様に玄関に入り妻に「なんだか身体が変だから救急車を呼んで!!」と言いました。10分後救急車が到着するまで意識ははっきり

りしていましたがまさか後遺症が残る脳内出血とは？救急隊員に酸素マスクを着用してもらい病院に着くまで「姓名は？住所は？誕生日は？自分がどうい状態か解るか？」と同じ質問を何回もされましたが、きちんと受け答え出来たと思います。自分が変だと思ったスーパーの出来事から救急病院に運び込まれる迄 30~40 分です。集中治療室に運ばれた時「この内出血が大きくなれば、手術しますよ!!但し手術となると相当難しい奥の方なので承知して下さい。」と医師が妻に言っていることが解りました。幸い止血剤でその出血部位は大きくならなかったのも手術には至りませんでした。しかし妻が主治医から『一生車椅子の生活と申します』と宣告されていたことをリハビリ病院転院の際に聞かされました。数日後点滴が取れ病院内リハビリ室に車椅子で連れて行かれました。歩くとか手で掴むとか当たり前のことが全く出来ません。『何だろうか、この感覚は?』、私にとって車椅子生活は自由に動けないので今迄のポジティブな生き様から『植物状態で生きる』ことは今後の人生に全く意味を持たないと頭の中で葛藤していました。

1ヶ月入院した救急病院から転院したリハビリ病院主治医との最初の面接で「現在私は全く歩けません。車椅子を使わないで歩けさえすれば何とかなると考えています。利き腕の右手はしっかりしているから左手は要りません。何が何でも歩ける様にして下さい!!」と呂律悪いが必死に訴えました。

「歩ける!!とはどういうことですか?」という禅問答みたいな面接でした。面接終了後すぐ歩行訓練室に連れて行かれ理学療法士との会話は次の通りでした。

「この訓練室は1周 50mです。2周歩いてごらん下さい!!」が第一声でした。

「ずっと車椅子だったから無理です。」初めての弱音発言です。

「いいから黙って言うことを聞いて歩けるだけ歩いて下さい!!」

何とか2周歩いた時にはもう全ての蟠り(わだかまり)がなくなりました。とてもうれしかったことを思い出します。理学療法士と目標を共有することが出来ると思ひ理学療法士を信頼することがポジティブに生きる第一歩として彼女に訴えました。

「私は現役時代何事も目標を掲げその目標を達成する為にマイルストーンつまり週毎・月毎に何を成し遂げておかねばならないかを決めていました。どんな高い目標でも辛いリハビリでも構いません!!」

3ヶ月後が退院目標でしたので「1ヶ月後に病室内フリー、2ヶ月後に病棟内フリーそして3ヶ月後に病院内フリーを目標にしましょう!!その時には少しでも走れる様になりましょう!!」と共有できました。正にサラリーマン現役時代の目標達成システムの実行と同一です。これが訓練する励みになったことは会社勤めの習慣が身に染み付いてる様です。歩くことが出来ない段階で『走れる様に!!』とはなんと素晴ら

しい目標であることかと心が昂りました。この様な目標が出来ただけですが3ヶ月後は健常時の自分に戻っている錯覚を感じました。

理学療法士と趣味の話になり私の好きな勇壮七言絶句をいくつか吟じました。リハビリ病院転院後呂律の悪さも気になっていたのでベッドの中で布団をかぶり『べんせいしゆくしゆく・・・』の習慣を続けていました。その成果もあり素人受けに満足しました。詩吟に対する気持ちは救急病院当時と比べてリハビリ病院では少しだけ前向きになっていました。素人受けしましたが「詩吟は続けられるかなあ？以前と声質が違うからなあ？」と呂律の悪さの他、高く太い声が出ないことがずっと気になっていました。

主治医との面接で退院は3ヶ月後と決まっていたのですが「私はもっと回復するはずですからここでリハビリを続けたい。」とお願いしましたが、「指方さんはもう十分回復している。リハビリには6ヶ月の壁というのがありそれ以上回復しないので十分理解して生活して欲しい。」と指導を受けました。その時は『6ヶ月の壁とはそんなものかなあ？』と渋々納得しました。

4 リハビリ会への参加

退院翌日から毎日8000歩をノルマに課しました。今後詩吟練習場になる近くの保土ヶ谷公園を散策しましたが歩数達成率は半分以下でした。ただ周りの景色が見えてきましたので少し余裕が出てきた様です。その余裕の一つ

として公園遊歩道脇のベンチは格好の詩吟練習場になりました。健常時この様な場所で吟詠することは恥ずかしさが先立ち思いつきさえしませんでした。病後は杖同伴でしたので行き交う人は同情的に私の詩吟を聴いてくれました。

健常時には『勇壮教訓』を好んで朗吟しましたが自分一人で楽しんでいました。それが発症を契機として変わりました。発症前毎朝「べんせいしゆくしゆく・・・」と吟じていましたが発症後は高く太い声が出ないので吟じるテーマを変えざるを得ませんでした。私の好きな詩人は金子みすゞで女史の詩文を『哀感』込めて吟じてみたいと思いました。しばらく練習すると自分の気持ちにぴったりでした。新しい自分を発見した気分でした。吟詠習慣が『べんせいしゆくしゆく・・・』から『・・・みんな違ってみんな良い』に変わりました。自分流に飾らずに吟じたので勝手に『福祉吟詠』と呼び始めました。映画『博士の愛した公式』を健常な頃観たことがあり高次脳機能障害となった博士の『あるがまま』の真意が自分の障害と重ね合わせることで解った気がしました。

身障者手帳発行に際して区役所を訪問し片マヒ、注意障害、視野欠損等により第1種2級判定を受けました。その際に区役所主催の中途障害者会を紹介され毎週定期的に参加しましたので日常生活にメリハリがつけました。参加者の障害程度は車椅子、声が出ない、会話が通じない等千差万別で、発声訓練プログラムに私が詩吟で練習してい

た『北原白秋五十音【アメンボ赤いな
アイウエオ・・・】』がありました。こ
の訓練中の反応から詩吟はきっと失語
症等回復に役に立つに違いない、同病
の方に勧めてみようと思いました。6ヶ
月の壁の存在を聞いて退院しましたが、
それは無いと思って努力しました。加
齢に伴う不具合を先取りしたと考える
と気分が楽になり、座右の銘『それは
関係がある・出来る』を再び意識した
瞬間でした。

『脳卒中、リハビリ、片マヒ』のネ
ット検索からリハビリ会を知り参加し
ました。参加する前は色んな障害の方
が後ろ向きの会話ばかりしているのだ
ろうと勝手に考えていました。私はこ
れから今迄の交際範囲には居なかった
方々と付き合うことになるのかと考える
と気分が一層落ち込みました。ところ
が真っ先に驚いたことは暗い顔をし
ているのは私だけで会員全ての方が前
向きな体験を発表されていることでし
た。歩けないのにゴルフラウンドした
方、手が動かないのに書道・銅版画を
披露している方、小学校の国語の教科
書を音読しているという人が創作漢詩
を発表していること、声が出にくい人
が一生懸命自己紹介していること等々
ホント驚きました。「健常者とどこが違
うのか？」と自問自答し「中途障害にな
ったことで人生を2回送るのですよ!!
新しいステージにいらっしやい!!」と
いう言葉に目から鱗が落ちました。そ
の言葉はのど元に刺さった魚の骨の様
に常に気になり忘れることが出来ませ
んでした。私は障害者になって強く思

い直したことは健常時のままだったら
サラリーマンの枠を出ることは多分無
かったであろうということ、障害者仲
間の世界を知り『出来ないことは出来
ない、それでも新しいことを発見して
いけば良い、これが障害の受容かもし
れない』そして『私が出来ることを同
病の苦勞している方と共有して一緒
に行動できると良い』と思いを新たに
しました。身体はどこか一つ不自由があ
るだけで色んな方から支えられている
実感と同時に他人への優しさ・思いや
りが変った自分を新鮮に見つめ直しま
した。

5 福祉吟詠教室の主宰

退院翌年夏祭り会場で詩吟を披露す
る機会を得ました。私が詩吟を趣味に
していたことを知る会社 OB の方から
無理やり連れ出されたのですがこの社
会参加が大いに意義ありました。金子
みすゞの『みんな違ってみんな良い』
を軸にシナリオを組み立て『わたしと
小鳥とすゞと』を吟じました。この会
場は他県だったので自分でも相当無理
して参加しました。しかしこの人前
に出ることによりみんなを感動させる
喜びが同病で苦勞している仲間を誘う
きっかけの一つになりました。

私は『中小企業の事業継続へのお手
伝い』を税務署に『さしかた中小企業
応援事務所』設立の届け出を行いました。
「障害者だからボランティアベースの
事務所設立です。」と言いつつとろ
署員から「障害者手帳など何のハンデ
でもありませんよ。」と励まされました。

私は文芸社がエッセーコンテスト『自分の趣味について』のタイトルで募集していることを偶然知りました。私は、『詩吟』をテーマにタイトル『スマート詩吟は面白い=趣味の詩吟が脳内出血を癒してくれた=』を応募しました。私の作品が最優秀に選ばれ賞品は単行本の上梓でした。(2014年6月文芸社発行1080円)題名に使った『スマート』はスマートホン、スマート住宅・家電に倣い『私の病気を癒し・ポジティブにしてくれた賢い詩吟』という意味として使用しました。『スマート詩吟』は私の造語ですが中途障害者の方に『詩吟はきっとあなたの役に立つ!!一緒にやってみませんか!!』という気持ちを込めてタイトルに使用しました。出版された雑誌帯には『四半世紀の間続けてきた唯一の趣味・詩吟。病後、詩吟を通して人と繋がり、リハビリ、回復をはかるまでの物語』のキャッチフレーズで紹介されました。この単行本を読んだ方から連絡を貰いスマート詩吟を一步進めた『福祉吟詠』として広がりました。その後この本が地元新聞記者の目に留まりインタビューを受け詩吟大会で聴吟してもらいました。新聞に写真入り記事「定年後の生き方」(2015年5月17日神奈川新聞)で取り上げられましたので福祉吟詠会員も更に増えることになりました。

脳卒中同病会で数回吟詠した際にリダから他の公共団体に福祉詩吟をプログラムの一つに推薦したい話があり、社会福祉協議会の助成金を受け『福祉吟詠教室』を主宰することが出来まし

た。社会参加が如何に大事かという典型的な出来事です。『福祉吟詠』も私の造語ですが皆さんに次の様にお話しています。

『福祉吟詠は自分のできる範囲で、原作をできるだけ理解して、原作者の気持ちにできるだけ寄り添い、自分が感じたままの朗詠(朗読・吟詠)を通して、聴く人にその感動を与えることで、周りを豊かに・幸せにしようとするものです。だから福祉吟詠は上手・下手を問いません。朗読そして吟詠に込めた気持ちを大事にしたいと思います。』

6 おわりに

詩吟は読みと余韻の芸術といわれています。歌と違い語句をはっきり読み・発声しその語句の余韻に節を付けそこに自分の感情を込めます。私は更に間も大事にしています。一例を述べますと失語症を知り私自身の体験から『間』を大事にしたコミュニケーションを図っています。失語症の方に「私はあなたが話したくなるように接しますネ、ただし私が理解できない時は解らないとはっきり言うからネ、でも私も『待つ間』を必ず取るからネ、私はあなたの思いを一生懸命知ろうとするからネ。」の気持ちにより福祉吟詠教室で一緒に楽しんでいます。失語症の方は「私はしゃべれません!!」が口癖です。従って一般の方から誤解を受けトラブルになることがあり、私はその際事情を説明し『待つ間』のお話を追加しています。失語症の方には「私はしゃべれま

せん!!ではなく言葉が理解できません!!と言ってネ」とお話しています。

障害者施設横浜ラポールでは毎年『秋の芸術祭』が開催されています。私たちはコロナ禍による辞退もありましたが5~6年続けて参加しています。出演時間が30分もありますので成果を十分披露することができます。毎年みんなが元気に前向きになれるテーマを発表し、内容はブログ(<http://blog.ne.jp/junsashikata>)で公開していますので会場に来れなかった方にも臨場感を楽しんで貰ってます。私たちは観客に感動を与えることが出来たと思っています。出演した会員も自信を持ちその後ポジティブな行動に繋がっています。

私が定年前セミナーで発表した『さしかた中小企業応援事務所』活動の一例は県中小企業センターでコーディネータとして経営相談の対応を続けていることです。設立時税務署員から受けたアドバイス通り中途障害者のハンデを意識したことは一度もありません。一方『詩吟道場』は町の活性化の一助のつもりでしたが、その目的と少し異なり個性ある一人ひとりに寄り添った『福祉吟詠』というユニークな教室を続けることが出来ました。中途障害者になった私が『障害なんて何にもハンデが無いんだ!!』といつも思っている

ことを福祉吟詠教室で共有できたことはとてもうれしい。この輪をもっと大きくしていきたいと思います。

指方順一郎(さしかた じゅんいちろう)

1945年生。九州工業大学制御工学科卒業後、日本酸素株式会社入社、プラント電気計装設計・品質管理担当、情報処理、開発部門センター長でガス・プラント遠隔制御システムを開発、2005年日酸TANAKA株式会社品質保安部長、監査担当、2010年埼玉県高圧ガス溶材協会事務局長、3か月後脳内出血発症。

1999年中小企業診断士登録、C&Sグループに参加しイグレン会員、1988年公益社団法人日本吟道学院認可修神会会員、2017年横浜詩歌福祉吟詠主宰代表。

ジクスト(日本科学技術情報センター)と日本の科学技術情報政策(中)

神奈川県異業種連携協議会
専務理事 芝 忠

6 政府の情報政策Ⅱ----

中小企業海外技術情報

1号答申以後の政府の情報政策を分析する前に、1965年にジクストから発行され、75年に廃刊となった「中小企業海外技術情報(以下、「情報」)」について触れておきます。

(1) 中小企業重視

1957年ジクスト設立のとき、大企業ばかりを対象としないで、中小企業も重視せよ、という声が国会審議で出されましたが、これに対する参考人の答弁は次のとおりでした(日本科学技術情報センター10年史)。

科学技術審議会情報部会長、中原延平東亜燃料社長は「技術があっても、それを生かす金がなければどうにもならない。とくに遅れている中小企業においてしかりだと思いますが----これはおのずから個別の問題----いまのままの企業形態としましても、中小企業はやはり技術の研究をやっているし、情報を待ちわびているという面が多々ある-----ただ強調したいのは、大企業は自分自身で情報を取れるが、中小企業はその点で非常に困難していますから利用価値が多かるう----また中小企業の技術水準が低いとおっしゃいますけれども、企業として規模が小さくとも技

術としては必ずしも水準が低いという
ことは一概にいえないのではない
か、小さな町工場でも非常に高い技
術水準の仕事をやっている所もあり
ます。」

日本中小企業団体連盟副会長、数原三郎は「とくに中小企業の技術を高度化し、その水準を高めることの重要性を指摘し、本情報センターがその役割を果たしてくれることを大いに期待する旨を述べた」といわれています。

こうしたやりとりの末、付帯決議として「情報センターの業務は政府・大企業に対する情報提供に偏することなく、中小企業に対する奉仕に格別の注意を払い、公益性を尊重するとともに、能率的かつ効果的運営を期すること」を決議しました。

(2) 中小企業対策の強化

しかしジクスト側は直ちには中小企業向けの情報対策をとったわけではありませんでした。やはり当面する大企業の技術導入戦略の補完措置としての役割を果たしていたのです。

ところが、55年から61年の「高度成長第一期」(川上「戦後、日本経済史入門」新日本新書)が終了するとともに、中小企業の倒産が急激に増加

し、また諸外国からの「自由化」圧力が強まり、64年からいわゆる「開放体制」に入りました。このため中小企業庁は「昭和30年代(55年)に入り、中小企業をめぐる経済環境の激変に対応し、従前にもまして中小企業政策の方向付けと、個別施策の体系化の必要性が強まるにいたった」(「中小企業庁25年史」)と認め、63年に中小企業基本法、中小企業指導法、中小企業近代化促進法などを制定して法体系を整備しました。このときまで技術対策としてはあまり見るべきものがなかったのですが、63年開放試験室と巡回技術指導事業を創設しました。いわば、こうした中小企業への技術対策として情報政策を強化することになったわけです。

(3) 技術情報誌の創刊

65年の2月ジグスト内に「中小企業海外技術情報委員会」を設置し、この委員には神奈川工試の初代所長、北島三省も加わりました。そして同年9月「中小企業海外技術情報」を創刊、発行部数1千部。化学・繊維・食品・機械・金属・電気・木工・印刷製本等の業種を対象に「記事内容としては現場ですぐ役立つもののほか、将来の技術向上、生産合理化の指針になるような記事」(情報管理65年11月号)を心掛け、企業には直接配布せず、各試験研究機関や中央会等を通じて流しました。中小企業の「対象者数は数十万もあり、本誌の発行規模では『二階から目薬』程度の効果しかないことは明らか

かである。そこで産業の基幹的分野に対象をしぼり、また中小企業近代化促進法などで指定している業種を考え、「出来るだけ広い、応用のきく技術についての解説」「近代化促進法で指定されている業種は、輸出品目とも深い関係があるので、海外技術を報知する理由」もある、というわけで抄録(100字~300字)ではなく、ダイジェストとして、1件、2,000字から4,000字の記事としてまとめました。

(4) 海外技術情報誌の内容

記事の具体的内容は、工試の技術情報センターにとっても参考になると思いますので、少々長いですが引用しますと、「第一は、現場での日常作業に関して起こる諸問題を解決する手助けとなるもので、現場でのヒント、計測あるいは分析法、制御法、既知素材の新しい用途、さらには現場技術者として心得てよい原理や理論、たとえば素材の特性、加工中に起こる物性の変化など。第二には将来の技術向上、生産合理化への指針あるいは刺激となるもので、新技術の紹介、新製品・新理論の紹介など。なお、全体を通じて現場で役立つものに主体をおき、実用段階にほど遠いものは採択しない。また、実施のために多額の投資や大規模な設備を要するもの、極度の大量生産を前提とするものは原則として採らない。ただし、中小企業向けであるからといって特に技術水準を下げることはしない。

この最後の条件は大切なポイントであって、こうなるに至ったいきさつは次のようなものである。一般に中小企業向けの記事といえば、水準の低いものというのが通念ではないだろうか。しかし、各界の経験者から得た知識によって、中小企業というものは技術水準によって分けられるのではなく、規模によって分けられるものであることを知り、中には高度の特殊技術を保有するものもあることを知った。進んで技術情報を得ようとする意欲のある所には、水準の低い技術を紹介しても意味のないことも分かってきたのである。

(情報管理 65 年 11 月)

こうして発行された「情報」は 11 年間で約 7,000 件の記事を提供してきましたが、75 年に廃刊になった理由は次のとおりです。

(5) 海外技術情報誌の廃刊の理由

「情報」は中小企業庁が一括買い上げ、各県に配布されていましたが、73 年中小企業振興事業団に中小企業情報センターができるとともに事務が事業団に移管され、予算上の制約をうけたこと、71 年著作権法の改正により、図表が掲載できなくなったり、要約の分量に制限が加わり、情報価値が減少したこと、さらには「技術は年々進歩し、情報量は年々増大している。一方、中小企業界は 1 会社、1 業種といった専門業者が大半であるから、さまざまな業者の多様化した要求には、本誌程度の記事件数では対処しきれるものでは

なく――結果的には提供記事数を増大するためには、本誌を廃刊とし、『文献速報』から記事を採択し、それをカード化して提供する方法に変更された。」(日本科学技術情報センター 20 年史) のです。

なお、この「情報」が創刊される 5 年前、1 号答申の中ですでに「一般の学会誌、抄録誌等はどちらかといえは高度の科学技術者を対象としているので、中小工業、農林水産業、ないし医療関係事業における技術者及び技術指導員に対しては、別途にその要望に合った形式の情報提供を行う必要がある。すなわちダイジェスト等の解説的な記事、ないしは特定の技術課題に対する文献目録が適している」と指摘されています。

(6) ジクストから中小企業事業団へ移管

結局、国会の付帯決議の実現が 8 年後の 65 年になり、また情報誌そのものも直接中小企業に送られるものではなく関係機関に僅か 1,000 部配付されただけで、さらに 11 年後に前記のような「理由」でジクストは事実上この分野から手を引き、ほぼ全面的に中小企業事業団に舞台を譲ったのです。

なお、「情報」に掲載された分野別記事件数は、機械金属がトップで 40% 弱、次いで化学が 22%、電気 19%、以下、繊維・紙が 12%、食品 6.4%、一般 5.9% などになっており、『文献速報』が化学偏重というのと大分違っていますが、一定の配慮をしたので

しょう。(以上、商工ニュース
No138、1980.4.7)

7 政府の情報政策Ⅲ

(1)66年(昭和41年)意見と情報産業

1960年の「1号答申」のあと4年経過した64年10月より、科学技術会議はその後の情勢の変化に対応するため、「答申」の手直しを行うことになりました。もともと科学技術会議は内閣総理大臣の諮問をうけてから審議、答申をする機関だったのですが、「諮問に対する答申を行なった後においても必要があると認めるときは、当該諮問があった事項に関し、さらに内閣総理大臣に意見を申し出ることができる」(学術月報66年11月)と科学技術会議設置法を64年7月に改正し、「常時調査審議を行う体制」を整備しました。何のことはなく、お手盛りで何でも『意見』を言えるようにしたのです。早速、同年10月に「1号答申」の見直しを決め、部門別に4つの部会を設置、第4部会は①情報流通、②国際交流、③普及啓発(いずれも「1号答申」の各項目に対応)を担当することになり、さらに同部会内に情報と国際交流の2つの分科会を設置しました。

66年(昭和41年)8月「科学技術振興の総合的基本方策に関する意見」が発表されました。この「意見」は「研究活動の拡充整備に関する方策」「人材養成の方策および研究者の処遇改善」「科学技術情報活動の強化

に関する方策」「科学技術の国際交流の強化に関する方策」の4つについて述べられていますが、情報活動が「4本柱のひとつとして取り上げられた」(梅原、情報管理66年8月号)のは初めてと評価されています。

工試でも75年(昭和50年)に策定された「中期構想」において、「試験・研究・指導」と並んで「情報」が4本柱のひとつと位置付けられているのは偶然とはいえ皮肉です。

(2)ジクストの到達点

この「意見」の目的は64年からの深刻な不況と「自由化」対策の中で、政府支出の研究費の大幅増額を要求したものです(中村「戦後日本経済と技術発展」)。情報関係ではこの「意見」をまとめるにあたって、64年に海外の情報活動の調査を行うとともにジクストがこれまでおこなってきた諸活動の「到達点」を分析しています。「(1号答申の出された)当時、設立後まだ日の浅かった日本科学技術情報センターは、その後一応着実な発展を示し、主要分野についての海外文献の抄録誌の刊行をはじめ、調査サービス、さらには業務に関する調査研究の実施へとその活動は年々活発化し、わが国の科学技術情報体制の中で総合センターとしての基礎を固めるに至った。かくして、組織的な科学技術情報活動の推進にとっての一つのよりどころができたのであり、いまやこれを軸として科学技術の進展に即応した総合的な科学技術情報体制の確立に向かっ

て進むべき道は開かれたのである」(梅原、情報管理 66 年 8 月号)と述べ、ジクストが政府・産業界の期待どおり、わが国の中央情報センターの資格をもったことを強調しています。

そして「前の『答申』においては、体制面についてとくに 2 次情報活動が強く押し出されていたがこの『意見』においては、2 次情報活動の重要性を指摘しながらも、情報源、情報処理者および情報利用者の協調関係をより強固なものにし、かつ組織化することの必要性が強調されている点、新しい情勢に対応した問題意識といえよう」(梅原、情報管理 66 年 8 月号)といわれています。

(3) 各センター機能の役割

さらに、1 号答申で初めて明示された総合センター、専門センター、データセンターのほかに「クリアリング機構(必要な情報の所在を案内するもの)の整備の必要性がうたわれている」のが目新しい点ですが、同時に、この数年間の日本の科学技術情報活動の実績を踏まえて、各センターの役割については 1 号答申より具体的に叙述されています。また、1 号答申以降開催された日米科学協力委員会情報部会の諸活動も反映されています。

今回も「意見」の発表前にジクスト側は、情報分科会の設置(65 年 1 月)後の 4 月に「1975 年を目標とする 10 ケ年計画 66~75 年度」を策定、またこれの具体化として第 1 期拡充 5

ケ年計画(66~71 年)を作成しています(65 年 12 月)。従ってこの「10 ケ年計画」がそのまま反映されたとみられます。たとえば 10 ケ年計画で「答申 1 号」で望まれた一流情報機関として、逐次刊行物についてはきわめて重要なものに限定しても早急に 1 万種、10 年後には 1 万 5 千種を確保する」とありますが、「意見」では「1 次情報を内外ともに網羅的に収集のうえ整備保存する。たとえば理工学分野のみにおいても当面すくなくとも 1 万種が必要」といっています。

なお、情報分科会のメンバーに当時の東京都立工業奨励館長が加わっています。

(4) 情報関係企業の育成

この「意見」のなかで注目されるのは、公然と「情報関係企業の育成」が強調されている点です。「科学技術情報活動が活発になるにしたがって企業的採算にのる業務分野が増えてきた。情報関係企業は公共的情報機関に対して有効な補完的役割を果たすものであるが欧米諸国とは異なっておりわが国においては、まだこのような企業の発展する環境が十分でないので、その秩序ある成長を促進するための育成策が必要」といっています。

今では情報産業や知識産業という言葉を知らない人はいませんがこの「意見」の発表された 66 年は日本の電子計算機産業において「揺籃期を脱した」(コンピュータ白書 67 年度)といわれた時期なのでした。

(5) 電算機の活用

日本にはじめて電算機が輸入されたのは57年、国産体制がようやくできてきたのが60～61年頃、そして65年に初めて国産機が輸入機を数の上でオーバーしたのです。

情報処理に電算機を使用することはジクストも早くから考えており、61年に東芝から発売されたTOSBAC4100を情報検索用に改良して導入しました。「意見」では「膨大な量の情報を能率的かつ迅速に処理して良質な二次情報を提供するもために、情報処理の機械化を緊急に進めるべきである」といっています。

(6) 情報化推進団体の設立

産業構造審議会は67年1月に「情報産業部会」を設置、69年5月に「情報処理、情報産業の施策に関する答申」を行いました。経団連が同年4月に「情報処理に関する推進体制の確立を要望する意見」、関経連が5月「情報化社会の基盤整備を望む」意見をまとめ、自民党も1月に「情報産業振興議員連盟」をつくるなど「最近、情報革命、情報産業あるいは経済情報システムなど情報関係の言葉が毎日のように新聞雑誌にのせられ、情報は当代の流行児になった感がある。」(浜田成徳ジクスト理事長、68年)時代です。情報産業関連の各種団体が次々に設立されたのも、ちょうど同じ時期で、65年に(社)行政情報システム研究所、67年に(財)日本情報処理開発センター、マネジメントサイエンスクラブ、68年に経

団連が「情報処理懇話会」、通産省重工業局に「情報産業室」、(財)日本経営情報開発協会、69年に日本生産性本部に「情報処理事業部」、日本商工会議所に「情報処理開発室」、(財)経済情報サービス、70年に(社)日本情報センター協会、(財)地方自治情報センター、(社)ソフトウェア産業振興協会、(財)情報処理研修センター、情報処理振興事業協会、(財)関西情報センター、71年に(財)日本特許情報センターというように雨後の筍のような有様でした。(情報産業年鑑72年版)

従って「意見」は、こうした動きを先取りのとりあげ、「情報関係企業の育成」を唱えたのでしょう。

ちなみに神奈川県が事務計算用に行政管理課に電算機を設置したのは、63年2月、県レベルでは全国でトップ、日本生産性本部が導入した年と同じという位早かったのです。

工試へは試験機器の付属装置として62年にはじめて入り、技術計算用の小型電算機が70年に導入されています。

(以上、商工ニュース No139、1980.4.8)

8 政府の情報政策IV――

ジクストの転換とNIST計画

(1) ニスト計画

1969年(昭和44年)10月、科学技術会議は「科学技術情報の流通に関する基本的方策についての」の答申を行いました。いわゆる「4号答申」

で、「科学技術会議として科学技術情報問題を単独に取り上げた最初の諮問」（中井「NIST 構想の立案に参加して」情報管理、69年8・9月号）でした。この答申の中で「科学技術情報の全国的流通システム」すなわちNIST(ニスト)構想といわれるものを提示しています。以降、日本の情報政策はこのニスト構想の実現という方向で進められており、71年(昭和46年)4月の5号答申「1970年代における総合的科学技術政策の基本について」、77年(昭和52年)5月の6号答申「長期的展望に立った総合的科学技術政策の基本について」のいずれも科学技術情報問題では、この構想の整備と補強を行っています。

(2)4号答申でひと区切り

科学技術庁は「4号答申」を受けて、70年から2年間ニスト検討委員会を設けて総合的な機能分析を行ないさらに、73年2月に科学技術懇談会を設置、74年8月に「科学技術情報の全国的流通体制(ニスト)の整備に関する報告」をまとめました。さらに78年5月「科学技術情報推進懇談会」を設け、同年12月「科学技術情報活動推進目標と施策について」をまとめました。次いで79年4月に「科学技術情報活動推進検討会」を設置、現在、この「目標と施策について」の具体化には工試から野尻普及指導科長が参加しています。

このように、現在の日本における科学技術情報活動の政策問題は、このニスト構想を如何に効果的に実現

するのかにかかっており学術情報システム(次回掲載予定)もこのニスト構想に取り込まれていますから、日本の情報活動史のひとつの区切りであったのです。

(3)NIST(ニスト)構想とジクストの役割転換

さて、このニスト構想の内容は全国的な情報活動を調整する中央調整機能、分野別に2次情報を作成するオペレーティングセンター、地域の情報提供機関である地域サービスセンター、さらに細かい地域ターミナル、特定の専門分野をもった専門センターとデータセンター。また資料保管機関として中央デポジトリイなどの機能をそれぞれネットワークで結び付けようとするものです。この構想で重要なことは、これまでのジクスト中心主義、一点強化主義を変更したことです。「4号答申」の作成に参加したジクストの委員の一人は「ジクストという大スーパーマーケットが一つあれば全国津々浦々まで情報を必要とした人の所に、必要とする情報を必要とした時に伝達出来ると考えるのはいささか幼稚であるように思える」といっています(中井「NIST 構想の立案に参加して」情報管理、69年1月号)。流通の効率化という点でもいくつかの副機能や副ネットワークがあった方が総合的な情報流通網として効率的であり、利用者へのサービスの向上につながるというわけです。ジクストが設立当初の「わが国の科学技術情報の中枢的

機関となる」ことをとりやめ、「科学技術情報流通機構での中枢的役割を果たす機関」というように「戦略方針の基本的な転換をはかりました。ジクストが2次情報を一元的に作成し、ジクストの各支所を通じて利用者に提供するというピラミッド型の情報網、しかもその頂点にジクストが座るというものではなく、他の2次情報を扱っている機関にジクストは「2次情報の材料」を提供するとか、情報流通に必要な技術・機器・システムの開発を行い、供給するとか、人材を養成して供給するとかの役割を中心としようということになりました。情報流通機構全体の中ではジクストはかなり重要な役割を果たすが、利用者への便ということでは各種の機関の総合的・立体的な網の目よりこたえようという構想です。もちろん当時2次情報の作成機関=オペレーティングセンターは「構想」では複数機関存在するように描かれています。現実には「ジクストのみしかなく」（中井「NIST構想の立案に参加して」情報管理、69年1月号）といわれており、74年の「科学技術情報の全国的流通体制の整備に関する報告」では「総合センター」（ジクスト）という名称がつかわれ

「総合センターはNISTの中核機関として科学技術分野に係る共通基本的な文献情報を処理し、一般の幅広い情報ニーズに対応することを主眼とする」と位置づけられました。

従って専門性の高い情報はジクストのファイルには整備されておらず、専門センターのファイルに頼らなければならないということになります。

(4) ニスト・4号答申の具体策の推進を

「4号答申」ではこの構想が「近い将来の最も望ましい」姿勢として図式化されており、いわば理論上の流通機構なので前述した各種「報告」において、徐々に煮詰められてきたのです。たとえば「この基本的施策の基礎となっている科学技術情報の全国的流通システム（ニスト）の構想は科学技術情報の流通組織そのものを示したものではなく、今後確立すべき各種機能の内容と相互の関連の基本的パターンをしめしたものである。

従って、この構想を現実の組織・機関における情報活動として、具体化していくためには、政府は科学技術情報の流通のための施策を国の重要施策の一つとして取り上げ、政府関係機関はもとより、産業界、学会と緊密な協力のもとに、計画的に実施するための具体策を策定し、その推進をはからなければならない」と「4声答申」でのべています。

(5) 国策としての情報網

こうしたシステムが考えられるようになったのは、ジクスト以外にも各種情報処理機関が多数生まれてきたことも一因でしょうが、時代的背景を探ると、前回述べたように「4

号答申」が出された時期は情報産業時代の幕開けで、電子計算機技術では IBM に対抗できる機種を開発するために国家的規模で資金・人材が投入されていましたし、同時に市場の拡大にもつながる情報ネットワークの形成と促進(産構審答申)が図られていました。また外国からの技術導入政策も壁にぶつかり、いわゆる自主技術の開発へ(67年(昭和42年)の経済社会発展計画や、68年(昭和43年)科学技術白書の副題「自主技術開発の推進」)が強調され、科学技術情報への新たな需要が提起されました。さらに「4号答申」の参考資料にも「1950年代の後半、とくに米国がその科学技術政策についての全面的反省を行い、その改革に着手した1958年ごろから科学技術流通問題は単なる情報提供サービス機関の設置と育成の段階から『国家的情報システム』整備の段階に入った」と考えられる」と述べられるなど国策としての情報網の整備と情報内容の見直しが要求されてきました。

(6) オンラインで電算機の活用を

また電算機と通信技術の発達により、全国どこからでも情報を入手できる「オンライン」システムの可能性も生まれてきました。「日本科学技術情報センター20年史」によれば「1965年(昭和40年)に入るといくつかの新しい変化が生じた。一つは全世界の科学技術情報量の伸びが著しくなったため、電算機の活用を中心とした新しい情報処理技術の開発が

必要となったことであり、一つは国内産業の充実にともない、流通する科学技術情報について、より詳密な多様化したものが要求されるようになったことである。その結果として専門分野ごとの情報のいっそうの充実や、学協会・大学・研究機関の情報源機関の責務も見直されるようになった」のです。

(以上、商工ニュース No141、1980. 4. 15)

9 政府の情報政策V——

学術情報システムとジクストの限界

(1) タテワリの情報体制

全国的な科学技術情報システムが今やジクスト単独ではネットワークを組めないということが分かり、方針転換がはかられましたが、最近の状況は数多くの情報システムや情報拠点ができ、非常に複雑になり、日本学術会議側も次のように言わざるを得なくなっています。「わが国の学術情報体制は各省別に縦割りに分割されている。人文・社会科学を除いた化学・技術情報体制で、総合的なものとして考えられているものは科学技術会議が諮問第4号への答申に示したN I S T構想である———NISTについての最も大きい問題は他省庁情報システムとの関係が不明瞭なことである。その中で特に問題になるのは、文部省が構想している学術情報システムとの関係である。

N I S Tは、人文・社会科学だけに関係するものは取り扱っていない

が、文部省の学術情報システムのなかで、自然科学にかんするものの大部分が、NISTの科学技術情報システムと共通し重複している。しかも科学技術庁・文部省いずれの側からもこれをどう考えるかということとはほとんど検討されておらず、いわば相互に無視した形で進行している。環境庁の情報システムも、予算の上ではまとめられていることもあるが、現実の一つのシステムとして進行しているとはいえない場合が多い」（日本学術会議編「転換期の科学・技術」78年3月）

(2) NISTに重大な欠陥

こうしたことが生じた背景は、ジクストを中心とした科学技術情報システムに重大な欠陥があるからです。

「NISTは、一応、わが国の科学技術情報流通体制を諸種の機能をもつ要素の作る系として描き出している。また、それを実現するために必要な人材養成、諸規格の制定、情報技術の研究開発、国際交流の窓口の一元化について論じている。ただ、主として科学技術庁が立案の業務にあたっていたため、一次情報生産の問題や図書館機能の問題にはほとんど触れていない」（日本学術会議編「1970年代以降の科学技術について」1972年3月）

「わが国で生産される科学技術情報をどのようにインプットするかという重要な点が欠落している」（日本学術会議編「転換期の科学・技術」79年3月）

「JICSTは、現在のところ特定の自然科学・技術分野の文献情報だけを扱っていることと、サービスが優良であるところが一つの問題点となっている。自然科学・技術に関するデータセンターが必要なことはいうまでもないが、現在のところNISTのなかには記載されているが、はっきりした具体化の方針は示されていない。」（日本学術会議編「転換期の科学・技術」78年(昭和53年)3月）

(3) 欠点を補う学術情報システム

そこで、こうした欠点を補い、かつ、人文・社会科学も含めて「研究活動に際して必要な学術情報の収集と利用」のためのシステム=学術情報システムをつくるよう、学術審議会は文部大臣の諮問にこたえて答申をしたのです。答申は73年と79年の2回でておりますが、現行の学術情報システムは主に73年答申により措置されたものが多いようです。

文部省はこれらの答申に従い、東京・筑波・広島・名古屋・京都などの拠点大学に大型計算機を導入して2次情報の検索システムを開発し、すでに東大ではTOOR—IRというシステムにより公衆回線によるオンラインシステムの端末機だけでも東大が570、筑波大290、京大200など、ジクストのオンラインの端末機数430を大きく上回っています。

さらに、一次情報については、77年に拠点大学図書館を指定し、医学・生物学系では大阪・東北・九州の3大学、理工学系では東工大、農

学系では東京・鹿児島 の 2 大学に 3 億 6 千 6 百万円 (79 年度) 投入して学術雑誌の収集を行っています。

また、法学、経済・経営学、東洋学、民俗学など全 47 ケ所の文献資料センターに 10 億 8 千万円 (79 年度) 投じています。

ジクストは 76 年度ですが、外国雑誌に 1 億 1 千万円投入し、5,279 誌購入していますが、理工学・医学・農学にわたっていますので前述の 6 大学が各大学平均して 3,990 誌購入しているのをみれば、これらの大学は 1 次情報については、すでにジクストと同規模の収集を行っているともみてよいと思います。

(4) 一次情報か二次情報か十分な考慮を

こうした事態が生じている理由は、ジクストの蓄積している情報が分野において理工学・医学・農学中心であり、また、国内文献に弱く、抄録内容が不十分、一次情報の利用に難点がある。専門性からいえばあまり高度でない、といえるからでしょう。企業では使えるかもしれませんが、大学等では使いにくいというわけです。従って、工試の技術情報センターの場合も、一次情報を重視したい所内研究者や企業内研究者と、簡単に技術動向や内容がわかるように加工された二次情報を重視したい企業の技術者や小規模企業の経営者との間の要求の違いがあるように思われます。十分な考察が必要です。

(5) 文献情報サービス、すでに 10 数機関

さて、一方、ジクスト及び大学等の情報機関とは別に専門的な文献情報サービス機関が全国ですでに 10 数機関存在しています。

医学系では医学中央雑誌刊行会、医療情報システム開発センター、国際医学情報センター、日本医薬情報センター。理工学系には化学情報協会、自動車技術会、日本原子力研究所、国立公害研究所、国立防災科学技術センター、海洋科学技術センター、日本造船振興財団、日本鉄鋼技術情報センター。農学系では農林水産研究情報センター。特許の日本特許情報センター、発明協会。中小企業対象の中小企業振興事業団中小企業情報センター。労働災害の中央労働災害防止協会。産業技術の日本産業技術振興協会。情報資料の案内機関としては日本科学技術振興財団があります。特徴的なことは、これらのうち、環境・医薬・特許・中小企業・農林水産などはそれぞれの分野で独自のネットワークをつくらうとしていることです。

また、数値データを蓄積しているデータセンターは宇宙船・地震などの自然観測データセンター、原子核や化学反応などの物性データ、金属材料などの工学系データの 4 分野、38 機関あります (科学技術白書 79 年 (昭和 54 年) 版)。

(6) 予算なく計画停滞

ニスト計画では、これらの専門センター、データセンターをジクストに結び付け、さらに地域にターミナルをおくことを決めています。「現実には停滞している」（日本学術会議編「転換期の科学・技術」78年(昭和53年)3月。)とされています。

「現状では、1976年(昭和51年)度において、(科学技術情報)予算は65億6千8百万円程度で、これが関係各省に配分されているが、JICST構想を実現するための総額に比べて著しく少なく、現在のままで行けば、この構想に従って科学技術情報トータルシステムができるのは『百年河清を待つ』のと同じことになりかねない」（日本学術会議編「転換期の科学・技術」78年(昭和53年)3月)というわけです。

ちなみに「科学技術情報推進懇談会」（「科学技術情報活動推進の目標と施策」78年12月)によれば、ニスト構想実現のための政府支出経費は(78年(昭和53年度)初期費用が170億円、毎年250億円と試算されていますので、今後10年間でざっと2千5百億円程の費用が必要となります。

(7) 工試・情報センターはじっくりと

検討を

私たちも神奈川県工業試験所におくべき技術情報センターはどのような内容、どのような性格をもつべきなのか、ジックリと検討すべきです。（以上、商工ニュース No144、1980.4.23）

芝 忠（しば ただし）

1942年生まれ、
1966年東京都立大学工学部卒業して、
すぐ神奈川県庁に入り、旧工業試験所で研究及び技術支援業務に携わった。
1976年頃から異業種交流を手掛け、
1984年に神奈川県異業種グループ連絡会議(異グ連)を結成して以来事務局を継続して担当。

2000～2011年関東学院大学経済学部講師(地域経済・中小企業)。

現在イグレン専務理事。

基本に戻ろう 企業経営 7

具体的 5S の実践 2 成功させるために

神奈川県異業種連携協議会
理事 加藤文男

5S を成功させるために

5S は、既に取り上げているようにマンネリ化しやすい傾向があります。5S の担当者は、マンネリ化することを避けるために常に全社員が5Sを意識するように刺激することを忘れてはなりません。

今回は、5S 実践のために3つのことを提案します。

1 社長が本気を見せる

会社で働く従業員の多くは、常に社長や工場長など経営トップの本音を探っている。そして極めて敏感にそれを察知する。経営トップが関心を示し、情熱を示さなければ、従業員は協力的にならない。

5S の実践も同じである。また、多くの従業員は、新しいことや面倒なことを始めたがらない。本音では、現状維持が最も楽であると思っています。5S も同じで今のままで給料がもらえて毎日を過ごすことができればこんな楽なことはないのです。

ここでは社長と言っていますが、組織の長を意味します。営業所であれば、営業所長、小さな課や係単位であれば、課長、係長がこれにあたります。5S を実践したいと気付いた組織の長がその単位を一つの会社と考えて本気さを実践しないと成功はしないのです。

(1) 初めて5Sを始める場合

5S はもう当たり前になっていますので少し歴史のある会社では5Sが初めてというケースは少ないと思います。新しく会社を創業する場合には、社長や工場長が5Sを始めると決断したならば、いい加減な気持ではなく、「5S を実行しよう」と本心から決めることです。そして、5Sを徹底するためには、「他社がやっているから」などと軽い気持ちで始めないことです。そして、経営トップ自ら、その決断を従業員全体に強くアピールすることです。

5S を初めて実践する場合、経営者の意思を示す最大の方法は、できるだけ盛大にキックオフ大会を実施することです。そして従業員全員に強く協力を求めます。キックオフ大会は、新年早々とか、経営年度の初めなど区切りの明確なタイミングが最も適切である。全従業員を集めて本日から5S活動を推進することを発表し、宣言します。そして、5Sがいい加減になると発生するトラブルの事例など経験をまじえて説明することです。

(2) 5Sを再開する場合

もし、過去に5Sが不十分でもう一度やり直したいと決断する場合の方が社長の強い決意がもっと重要になります。社長は、過去に発生した失敗事例をできるだけ多く集めて、従業員に強く実施を要求します。

担当者に任せて「なんとなく開始する」のが最も不適切なやり方です。同じ失敗を繰り返すことになります。従業員は、「どうせ最初だけでそのうちに社長の情熱が下げる」と秘かに待っています。

成功するには、経営会議、営業部門会議、工場部門会議など発言する機会を捉えて、実際に発生した事例をいくつか話します。「従業員がまた5Sの話しか」と言われるくらい徹底することです。とにかく何と言われようと職場の「長」は決してあきらめないことです。

2 見えない無駄な時間を認識する

5Sが徹底されていない企業では、製造現場で部品や工具を「探す時間」や要求した資料が「すぐに出てこない」などのことが頻繁に発生すると言われます。モノや資料を探している間、関係者は待たされることになります。待たされる時間は、そのほとんどが無駄な時間になります。既にムダについては説明しましたが5Sが徹底されないと無駄が多くなるのです。この待たされる時間は、表（おもて）に現れない無駄になります。待たされる時間は、「イライラ」させられるなど精神的に悪いだけでなく、すべてがロス時間なのです。

ここでこのロス時間を試算してみましよう。

(1) 社員一人当たりの経費

仮に社員の平均給料を30万円とします。これは毎月本人に支払われる給料ですが、このほかに社会保険料など福利厚生費が間接費としてかかっています。更に賞与があります。1回の賞与を1か月分として、2回支払われます。これらを単純計算すると1年間に合計660万円になります。

給与	300,000	x	12	=	3,600,000
----	---------	---	----	---	-----------

福利厚生等	200,000	x	12	=	2,400,000
賞与	300,000	x	2	=	600,000
合計					6,600,000

(2) 次に1年間の労働時間を計算します。1日8時間で毎月20日間働くとして、1年間に1920時間になります。

1日	8時間
1か月	20日
1年間	12ヶ月
合計労働時間	

$8 \times 20 \times 12 = 1,920$ (時間)

(3) 1時間当たりのコストを計算する。

$\text{¥}6,600,000 \div 1920 \text{ (時間)} = \text{¥}3,437.5$
社員一人当たり、1時間3438円になる。

(4) さらに1分当たりのコストを計算する。

$\text{¥}3,437.5 \div 60 = 57.3$ 円
社員一人当たり、1分57.3円になる。

このように工具や道具、書類を探すために1分間と要すれば約60円ムダになっているのです。この費用は、探す本人だけではない。探す間、待たされている関係者の人数分、損失が発生しているので合計金額は大変大きくなります。

製品を製造する会社には、原材料を調達する資材購買部門があります。製品を販売する会社には、仕入れ、調達する部門があります。これらの部門では、常に少しでも安く調達するために、展示会などで情報を収集し、販売担当者と厳しい交渉をしているのです。

原材料によっては、1個当たり、円単位ではなく、10銭やそれより小さな1銭単位の厳しい、値下げ交渉をしていることを忘れてはなりません。

3 成功するために赤札作戦を

整理とは、必要なものと不要なものをはっきり区分し、身の回りから不要物を撤去することです。整理が出来ないと、整頓も清掃もできないのです。整理を実践するには「赤札作戦」があります。

5Sを実践している会社であれば、「赤札作戦」の存在を知っているでしょう。少なくとも5Sを推進する担当者はどこかで聞いたことがあるはずです。しかし、知っているでも実際に実施した会社は少ないかもしれません。よく知っていることと実践は大きく異なるのです。毎日忙しそうに動き回っている各担当者に行動することをこれを提案することは難しい。ついつい提案することを躊躇しているうちに何日もたっているものです。5Sは、マンネリ化します。時折、組織全体に気合を入れて刺激する必要があります。

「赤札作戦」を成功させるには、計画的に行うことです。その手順は以下の通りです。

赤札作戦の手順

① 赤札プロジェクトの発足

実践は、会社の規模により、プロジェクトメンバーや実施期間を決定します。

② 対象とする場所

対象とする場所は、工場であれば、作業者の作業台及びその周辺、工場内、倉庫内などすべてです。事務所であれば、ロッカーの上など共通で使用する場所すべてを含みます。赤札作戦の最終目標は、身の回りから不要物(垢)を撤去することです。その結果、工場の中は本当に「要る物」だけが残ることになります。また赤札作戦は本来全社的にかつ、徹底的におこなわなくてはなりません。しかし、全社を一度に実施

すると労力も大変です。一部の部門を選定して実施することです。一部の部門が行えば、他の部門が一部の赤札作戦を見て、他の部門も実施しやすくなります。

③ 赤札作戦の対象決定

- ・在庫 原材料、部品、仕掛品、製品
- ・設備 機械、設備、治工具、金型、台車、机、椅子、車輛、備品
- ・スペース 床、棚、倉庫

④ 赤札基準の決定

重要なのは、必要な物と不要な物をはっきり区分するための基準が赤札基準です。赤札を貼り付ける対象となったのは、不用品となるが、それをそれぞれどう対処したら良いか、どのように処分するかを予め決めます。

- ・要るものと要らないもので区別する。
要らないものは「いつ使用するか」「いつまで使わないか」から判断する。
- ・使わないものは、価値の有無で区別する。
使わないものは、「価値のあるもの」「価値のないもの」を基準とする。使わないと判断したものでも価値があれば、外部へ転売可能です。

⑤ 赤札の作成

赤札作戦であるが、貼る紙の色は赤色にこだわらず、目立つ色なら柔軟に判断する。

⑥ 赤札の貼付

作戦に関係する担当者が集まり、全員で対象とするものを確認し、基準に従って、次のことに注意して赤紙を貼る。

- ・現場の実情を聞き客観的に判断する
- ・冷静な目で見ると
- ・当事者に貼らせない。
現場の当事者に言い訳させない。
- ・疑わしきものには赤札を貼る
- ・集中して短期間に実施

今直ぐに捨てるという即断を下すのが難しい場合があるので、特定の置き場所を「赤札置き場」として決めます。そこに集めて必需品と区別し、しばらく保護観察の対象とするのが狙いです。

⑦ 紙を貼った対象を1か所に集める

簡単に移動できない設備などを除き、対象物は1か所に集めます。

⑧ 赤札を貼った品物の対処と評価

評価基準に従って不要と判断されたものを決定し、そのリストを作成する。

在庫品やサービスパーツなどは次のことに注意して判断する。

- ・ 不要在庫品 死蔵品と滞留品の区別
- ・ サービスパーツ 製品寿命を確認し、適正在庫期間を
- ・ 死蔵品 処分スケジュールの決定

ここで「滞留品」というのが一番悩むところですが、例えば、過去一ヶ月以上使用されていないもの、向こう一ヶ月以内に使用予定のないもの、将来1年間使用予定なしなどとして区別することも可能です。

⑨ 不用品廃棄の決定

作戦担当者のだれも反対しなかった対象物は、廃棄の決定をします。大きな組織においては、設備など他の部門で使用可能な場合があります。設備など金額の大きなものは社内規定により、決済処理が必要です。

⑩ 廃棄処理

廃棄を決定すれば、できるだけ早く処分します。廃棄するにあたり、廃棄に費用を要する場合と販売可能なものがあります。無償であれば、引き取られることが可能なものもあります。

赤札作戦を全社で行うにあたり、5Sを担当する部門の負担が大きい場合は、毎月どこか一つの部門を実践することをお勧めします。1年間で全社に計画がいきわたり終了すればよいのです。赤札作戦の実践は、その実績を必ず経営会議などで報告させることを社内のルール化するようにしたいものです。

いい加減に処理するとそれを見た関係者は、黙って嵐の過ぎ去ることを待ち、効果がでません。徹底することが重要です。

加藤文男 (かとう ふみお)

1941年生 中小企業診断士

通信機器製造会社で品質管理・品質保証部門を担当後、映像機器、通信機器の欧米地区の営業担当、国際調達、海外工場支援などを担当。中小企業大学校講師、神奈川産業振興センターのビジネスコーディネータを経て現在イグレン理事。

理論機関誌創刊号 2015年9月1日

- | | |
|--------------------------|------|
| 1 イグレン理論機関誌の発行にあたって | 芝 忠 |
| 2 イグレン 30年から学ぶこと | 芝 忠 |
| 3 地域活性化私論 私の秋田移住の7年間 | 宮川 豊 |
| 4 国際協力機構（JICA）本邦研修実施報告 1 | 加藤文男 |

理論機関誌第2号 2016年1月4日

- | | |
|--------------------------|------|
| 1 「脱原発」で考える 第32回定期総会記念講演 | 金子和夫 |
| 2 「中小企業振興条例」の具備すべき内容とは何か | 愛 賢司 |

理論機関誌第3号 2016年6月1日

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1 異業種交流シフト21と企業視察研修会について | 有村千里 |
| 2 「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進条例」
の充実のために | 愛 賢司 |
| 3 学生は中小企業の広告をどう評価しているか | 芝 忠 山崎 淳 |
| 4 新しい時代の茶の湯 | 渋谷英明 |
| 5 国際協力機構（JICA）本邦研修実施報告 2 | 加藤文男 |

理論機関誌第4号 2017年1月6日

- | | |
|---------------------------|------|
| 1 公設試験研究機関の役割に関する考察 | 芝 忠 |
| 2 モノづくりの効率化へ向けて | 山本俊夫 |
| 3 フクシマ復興応援ネットワークの支援活動報告 | 加藤文男 |
| 4 県内の「中小企業振興条例」の到達点と今後の課題 | 愛 賢司 |
| 5 国際協力機構（JICA）本邦研修実施報告 3 | 加藤文男 |

理論機関誌第5号 2017年6月1日

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1 地球温暖化による極端気象に対応した水災害警報システム | 伊藤幸彦 |
| 2 重心位置測定器を開発して「特許をとれたぞ！」 | 横須賀健治 |
| 3 わが国の異業種交流活動の発展史 その1 | 芝 忠 |
| 4 身近な環境と健康 1 | 早川成昭 |
| 5 国際協力機構（JICA）本邦研修報告 4 | 加藤文男 |

理論機関誌第6号 2018年1月10日

- | | |
|-----------------------|------|
| 1 わが国の異業種交流活動の発展史 その2 | 芝 忠 |
| 2 身近な環境と健康 2 | 早川成昭 |
| 3 「中小企業振興条例」と「経済民主主義」 | 愛 賢司 |

理論機関誌第7号 2018年6月10日

- | | |
|-------------------------|------|
| 1 大型モータ修理技術の一大革命 | 藤本俊美 |
| 2 コラム集「春夏秋冬」その1 | 宮川 豊 |
| 3 現代 IT 社会におけるイグレンの存在価値 | 橋本真幸 |
| 4 わが国の異業種交流活動の発展史 その3 | 芝 忠 |
| 5 テクニカルショウヨコハマ2018に参加 | 芝 忠 |

理論機関誌第8号 2019年1月7日

- | | | |
|------------------------------|------|------|
| 1 「高周波衝撃弾性波法」による非破壊調査システムの開発 | 伊東 修 | 石川常夫 |
| 2 マス・カスタマイゼーション化を実践する宝電機工業 | 加藤文男 | |
| 3 コラム集「春夏秋冬」 その2 | 宮川 豊 | |
| 4 北海道地震に遭遇して | 芝 忠 | |
| 5 製造業の品質不正問題を考える | 加藤文男 | |

理論機関誌第9号 2019年6月3日

- | | | |
|---------------------------|------|------|
| 1 ロボット・ドローンセンターで減災防災社会に貢献 | 伊東 修 | 石川常夫 |
| 2 コラム集「春夏秋冬」 その3 | 宮川 豊 | |
| 3 ものづくり交流・政策研究会報告 | 芝 忠 | 國重正雄 |
| | 岡田 俊 | 加藤文男 |
| 4 最近の資材購買と海外調達事情 | 加藤文男 | |

理論機関誌第10号 2020年1月7日

- | | | |
|---------------------|------|------|
| 1 創業100年企業を目指して | 尾下浩一 | |
| 2 まんてんプロジェクト発足のころ | 芝 忠 | |
| 3 イノベーションの変化と対応する企業 | 加藤文男 | |
| 4 基本に戻ろう 企業経営 1 | 愛 賢司 | 加藤文男 |

理論機関誌第11号 2020年6月5日

- | | | |
|------------------------|------|--|
| 1 特集 新型コロナウイルスに関する特別寄稿 | 藤原辰史 | |
| 2 テクニカルショウ横浜2020 展示会報告 | | |
| 3 日本のモノづくりに何かが起こっている | 芝 忠 | |
| 4 異業種交流活動発展史(補足) | 芝 忠 | |
| 5 基本に戻ろう 企業経営 2 | 加藤文男 | |

理論機関誌第12号 2021年1月5日

- | | | |
|--|--------------|-----|
| 1 特集 新型コロナを乗り越ろう
コロナ禍における日本の文化活動状況を考察する
新型コロナの裏で起こっていること | 宮川 豊
加藤文男 | |
| 2 対話のための図書館 図書館のための対話(1) | 林 秀明 | 芝 忠 |
| 3 我が経営を語る 大いなるチャンスをいただいた人生 | 横須賀健治 | |
| 4 「鬼滅の刃(きめつのやいば)」フィーバーに寄せて | 芝 忠 | |
| 5 基本に戻ろう 企業経営 3 | 加藤文男 | |

理論機関誌第13号 2021年6月1日

- | | | |
|-------------------------------|------|-----|
| 1 特集 元気に生き残る企業経営を | 編集担当 | |
| 2 対話のための図書館 図書館のための対話(2) | 林 秀明 | 芝 忠 |
| 3 ちょっとへんですよ アトキンソンさん | 愛 賢司 | |
| 4 キングダム KINGDOM の世界 | 芝 忠 | |
| 5 テクニカルショウヨコハマ2021 オンライン見本市報告 | 愛 賢司 | |
| 6 基本に戻ろう 企業経営 4 経営理念を作ってみよう | 加藤文男 | |

理論機関誌第 14 号 2022 年 1 月 6 日

- | | | |
|---------------------------|------|-----|
| 1 対話のための図書館 図書館のための対話 (3) | 林 秀明 | 芝 忠 |
| 2 「姓」の 文化 | 水沼高志 | |
| 3 鉄道輸送研究会の思い出 | 芝 忠 | |
| 4 オミクロン型で終結にしたいコロナウイルス | 加藤文男 | |
| 5 基本に戻ろう 企業経営 5 5S は経営の基本 | 加藤文男 | |

理論機関誌第 15 号 2022 年 6 月 1 日

- | | | |
|--|------|-----|
| 1 対話のための図書館 図書館のための対話 (4) | 林 秀明 | 芝 忠 |
| 2 川崎市新市庁舎内に市電・トロリーバスを
復元保存・活用する提案 | 与本剛三 | |
| 3 オミクロン株の特徴とその対策 | 惣田昱夫 | |
| 4 ジクスト (日本科学技術情報センター) と
日本の科学技術情報政策 (上) | 芝 忠 | |
| 5 基本に戻ろう 企業経営 6 具体的 5S の実践 | 加藤文男 | |

編集後記

日本のコロナの感染者数及びコロナに起因する死者数共に既に 2022 年初めごろを超えた。重症者数はまだ超えないので政府も特に対策をしない。年末年始は、行動制限なしで航空機も新幹線もほぼ満席と言う。過去 2 年余の鬱憤を晴らすごとく、気にせず自由に行動する。電車の中でもマスクをしない若者が増えてきたようだ。年末になり、忘年会だけでなく久しぶりの帰郷計画も増え、さらに感染者の増えることが心配される。現在あまり取り上げられないコロナの後遺症も気になる。当機関誌でも後遺症の実態の情報を取り上げましたが、正確な状況の把握が難しい。後遺症になっても怠け病のように言われることを恐れてじっと耐えている人もおられるだろう。各個人にとっては、今こそ従来にも増して注意する必要があるようです。

今回は、イグレンスタッフ指方さんにご自身の脳卒中体験及びその後の福祉活動の特別寄稿をいただきました。元気に出席される毎月のスタッフ会議では、そのようなそぶりを見せることもなく従来と同じように自然に行動される姿の活動報告にほんとうにあたまがさがります。

老人病とか、生活習慣病などと言われている脊柱管狭窄症を取り上げました。手足のしびれや痛みなどで悩みながらも声に出してもなかなか理解されずに静かに堪えておられる方々が大変多いと聞きます。今回は、脊柱管狭窄症の実態の一部を取り上げました。これを機会に腰痛や手足のしびれに悩む方々からの体験談など情報をいただければ紹介したいと思います。本機関誌を通してすこしでも周辺の方々のご理解をいただく一助になればと思います。

次号第 17 号は、2023 年 6 月を発行予定しています。できるだけ広い範囲から自由な内容で多くの方々のご投稿を歓迎します。締め切りは、2023 年 5 月 25 日です。

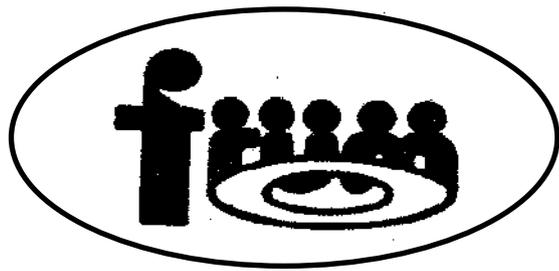
加藤文男記

神奈川県異業種連携協議会の沿革

1983. 2 テクニカルショウよこはま' 83に7異業種グループが出展
同 上 第1回神奈川県異業種交流大会(産業貿易センター)に12グループ70名参加
1983. 5 「異業種グループ交流フォーラム」を10団体により、工業試験所技術情報センターに設置。異グ連の母体となる。
1984. 2 第2回神奈川県異業種交流大会(工業試験所)で、「異グ連」結成と、「全国集会」開催を決議。270名参加。
1984. 4. 20 神奈川県異業種グループ連絡会議発足(工業試験所)23団体参加。
1984. 9 ビッグフォーラム' 84(異業種交流全国集会)2,400名参加、県民ホール
1988. 2 異業種交流サミット' 88小田原大会450名(地域大会の始まり)
1988. 9 '85 神奈川異業種交流プラザと米沢電機工業会が広域地域間交流提携(始まり)
1991. 2 第1回日韓シンポ(横浜)(海外提携の始まり)
1995. 4 「神奈川異業種交流センター」開設
2003. 9 まんてんプロジェクト発足
2004. 2 「地域産学交流サロン川崎」発足(地域サロンの開始)
2004. 4 (株)JASPA 設立
同 上 異グ連20周年記念行事、国コーディネーター事業実施
2005. 11 JICA 研修始まる。
2013. 6 「神奈川県異業種連携協議会(イグレン)」と改称。
2014. 11. 28 イグレン30周年記念行事
2016. 3. 5 中小企業支援と公設試験研究機関の役割を考えるシンポジウム
2019. 6. 18 第36回総会
2021. 2 テクニカルショウ横浜2021 オンライン展示に参加
2022. 5 イグレン講演会「V字回復ソニー」講師 田村 慎吾氏
2022. 11 第95回 西湘サロン「日米の田舎暮らし」講師 瀬戸 弥生氏
2022. 11 第59回 海老名サロン「事業承継」講師 林 卓一氏

かながわイグレン理論機関誌

発行 神奈川県異業種連携協議会
議長 金究武正
専務理事 芝 忠
事務局 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
所在地 神奈川中小企業センター7F 703
電話 045-228-7331
発行年月 2023年1月6日



神奈川県異業種連携協議会